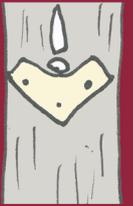
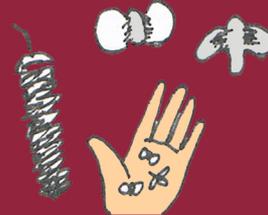
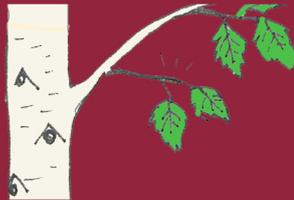


新学習指導要領のもとでの

森林体験活動展開

～緑の少年団等の森林体験活動指導者に向けて～



公益社団法人 国土緑化推進機構



新学習指導要領のもとでの森林体験活動の展開

～緑の少年団等の森林体験活動指導者に向けて～

令和3年3月

公益社団法人 国土緑化推進機構

はじめに

本書の作成の背景となっている緑の少年団は、次代を担う子供たちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした団体です。

緑の少年団は、全国 47 都道府県のすべてにあり、各団が自分たちの活動内容や成果を発表し、相互研鑽を図るため、各地域で活動発表大会が行われています。

森林づくり体験・学習活動、緑の少年団の学習活動、森林体験活動、生き物調べ、巣箱設置などの環境学習活動のほか、木工・竹細工・クラフトなどの体験を行っています。また、全国育樹祭の併催行事として、毎年「全国緑の少年団活動発表大会」が開催されています。

自然に親しみ緑を愛し、守り、育て、人を愛する心を育てようとする緑の少年団に対し、国土緑化推進機構および都道府県緑化推進委員会では、助成事業を実施しています。

緑の少年団は、すばらしい活動の歴史と支援組織があり、現在、全国で 3000 を超える団がありますが、その多くが小学校単位を主体に活動しています。

令和 2 年 4 月から小学校において新たな学習指導要領が全面実施となり、全ての教科書が新しくなっています。新たな学習指導要領の大きな特徴は、「社会に開かれた教育課程の実現」という目標を中心に据えており、「より良い学校教育を通じて、より良い社会を創る」という目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるための資質・能力を育む」としてしています。

小学校の教科や授業時数の増加、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善などの取組の中で、緑の少年団も新たな時代にふさわしい活動や新たな指導体制を構築することの必要性が高まっています。

森林体験活動の指導は、広い意味での「教育」そのものであり、学齢期の子供たちを対象に行う場合、指導を推進される方々は、小学校学習指導要領や新しい教科書における森林等の記述について確認し、併せて学校教育の実情について一定の理解をしていることが望ましいと考えられます。

また、以上のことについては、緑の少年団の活動指導者のみならず、子供たちを対象にしたすべての森林体験活動についてあてはまると考えられます。

本書は、今日的な学校教育の動向及び新たな学習指導要領と新しい教科書における森林等（森林・林業・山村・地球環境の保全等）の記述を整理したものです。

子供たちを対象とした効果的な森林体験活動プログラムの作成や実施にあたって、緑の少年団をはじめ、広く自然体験活動を推進指導する方々にとって参考としていただければ幸いです。



目次

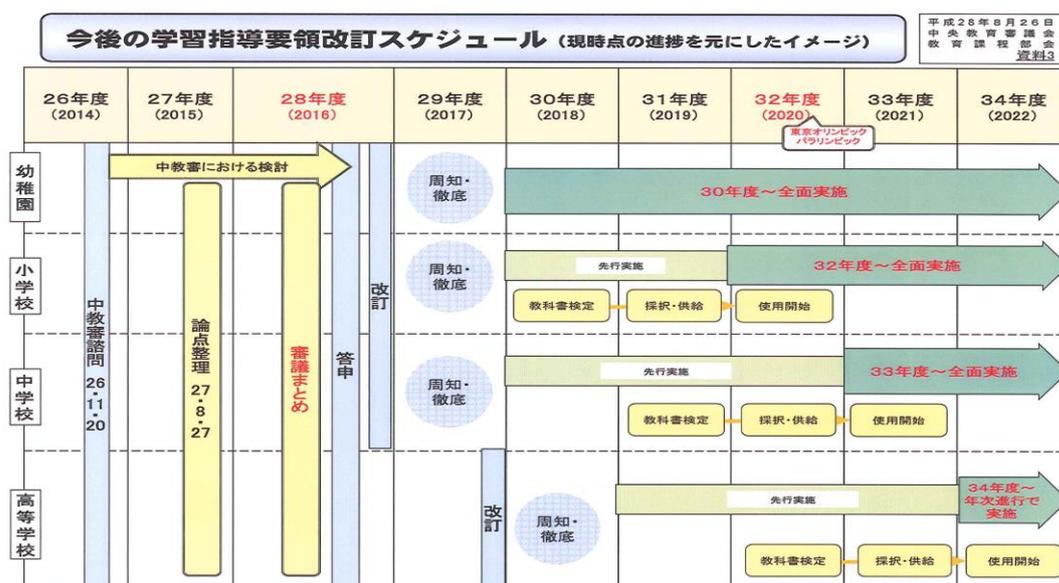
| | |
|---|-----------|
| はじめに | 1 |
| 1 新学習指導要領及び学校教育における森林等の取扱い | 3 |
| (1) 新学習指導要領の告示から実施まで | 3 |
| (2) 学習指導要領改訂の方向性と小学校学習指導要領改訂のポイント | 4 |
| (3) 学校教育に関わる法令と環境教育 | 6 |
| (4) 新学習指導要領における教育課程の編成についての記述（森林等にかかわる事項） | 9 |
| (5) 森林環境教育のとらえ方と新学習指導要領 | 12 |
| 2 新学習指導要領及び新たな教科書における森林等に関する記述 | 13 |
| (1) 新たな教科書への移行 | 13 |
| (2) 新学習指導要領及び新たな教科書における「森林等」の扱い | 14 |
| (3) 新学習指導要領及び新たな教科書における森林等に関する記述内容の整理表 | 19 |
| 3 新教科書の特徴と森林等に関連するプログラムのヒント | 38 |
| (1) 生活1・2年 「あきをたのしもう」 | 38 |
| (2) 社会4年「水の循環」 | 40 |
| (3) 理科4年「季節と生物」 | 42 |
| (4) 特別活動・総合的な学習の時間1～6年「体験活動など」 | 44 |
| おわりにかえて～子供たちに対する指導のポイント（筆者の体験から） | 46 |

1 新学習指導要領及び学校教育における森林等の取扱い

(1) 新学習指導要領の告示から実施まで

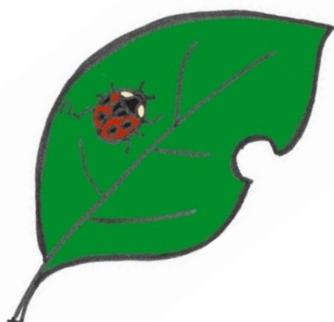
学習指導要領は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校ごとに告示されます。

幼稚園から中学校については2017年3月に改訂され、高等学校については翌年2018年3月に改訂告示されています。



小学校についてみると、告示後1年間の周知期間を経て、2年間は一部先行実施され、その期間に新たな教科書の検定、市町村教育委員会が採択決定後印刷製本され、2020年4月から新学習指導要領が全面实施され、すべての教科書が改訂されています。

中学校は2021年4月から完全実施、高等学校は2022年4月から段階的实施となり、逐次高等学校及び大学の入学試験等にも反映されることになります。



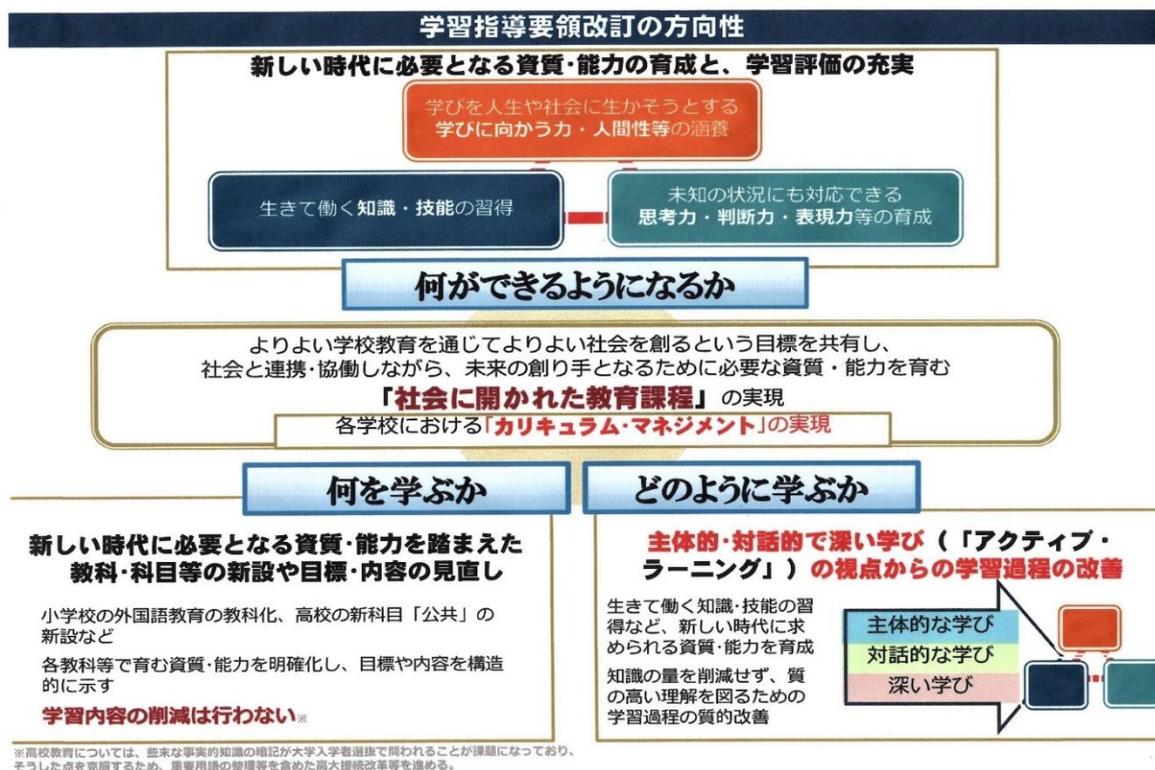
1 新学習指導要領及び学校教育における森林等の取扱い

(2) 学習指導要領改訂の方向性と小学校学習指導

要領改訂のポイント

今回の学習指導要領の改訂の方向性については、文部科学省が下の図（文部科学省の HP より引用）のとおり示しています。

すなわち、新しい教育課程とは、「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を社会と共有すること」としており、基本方針としては、「社会と連携・協働しながら、未来の創り手に求められる資質・能力を育む」ため、「社会に開かれた教育課程」を実現しようというものです。



このことを言い換えると、学校教育と社会教育がより密接に連携する必要があり、社会教育の指導者も学校教育の実情について理解することが大切になっているといえます。

さらに、変化の激しい新しい時代に必要な資質・能力を設定し、それを育成するために、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を明確にしました。育成すべき資質・能力としては、

- ① 学びに向かう力・人間性等の涵養
- ② 生きて働く知識・技能の習得
- ③ 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

が三本柱として示されています。

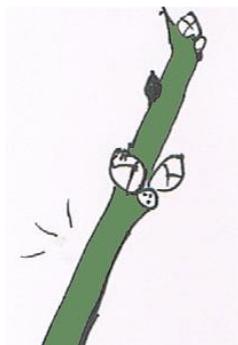
そのための学びの手法については、主体的・対話的で深い学び、すなわちアクティブ・ラーニングの視

点に立った学習過程の改善を重視しています。

以上は、今回の学習指導要領改訂の全体の方向性ですが、小学校学習指導要領の改訂のポイントを箇条書きにすると次のようになります。

小学校教育の基本と教育課程の役割（学習指導要領解説より）

- ① 子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視する。（⇒社会教育との連携の重要性）
- ② 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指す。（⇒知識の理解の質を更に高める）
- ③ 育成を目指す資質・能力を明確化するため、全ての教科等の内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理。
- ④ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進。
- ⑤ 各学校が目標を達成するための教育課程を編成するものとし、目標を実現するための教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていく。



1 新学習指導要領及び学校教育における森林等の取扱い

(3) 学校教育に関わる法令と環境教育

学校教育に関わる法令として、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則の3つがあり、これらの法令に基づいて、学校教育が規定されており、自然や文化に関する教育についての規定も含まれています。授業時数については、学校教育法施行規則により、全ての教科、学年ごとに規定されています。

(1) 教育基本法

(略)

(教育の目標) 第二条

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

(略)

四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。(平成18年改正で追加)

五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

(略)

(義務教育) 第五条

2 義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。

(2) 学校教育法

第2章 義務教育 第21条

義務教育として行われる普通教育は、教育基本法(平成18年法律第120号)第5条第2項に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

(略)

二 学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。(平成19年改正で追加)

三 我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

(3) 学校教育法施行規則

第四章 小学校

第二節 教育課程

第五十一条 小学校の各学年における各教科、特別の教科である道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの授業時数並びに各学年におけるこれらの総授業時数は、別表第一に定める授業時数を標準とする。

上記のとおり、教育基本法第二条第四項において、自然を大切にすることを養うことや学校教育法第21条第二項、第三項において、自然体験活動を促進することや郷土の現状や歴史について学ぶことが位置付けられています。

地域の自然や森林を学習の場（教材）として利用することにより、それぞれの教育目標に寄与することができます。

移行措置期間中の小学校の標準授業時数について

| 〔平成29年度〕 【現行】 | | | | | | | | 〔平成30・31年度〕 【移行期間】 | | | | | | | | 〔平成32年度以降〕 【新課程】 | | | | | | | |
|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|------|-----------------------|-------------|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------|---------------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|------|
| 学年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計 | 学年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計 | 学年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計 |
| 国語 | 306 (9) | 315 (9) | 245 (7) | 245 (7) | 175 (5) | 175 (5) | 1461 | 国語 | 306 (9) | 315 (9) | 245 (7) | 245 (7) | 175 (5) | 175 (5) | 1461 | 国語 | 306 (9) | 315 (9) | 245 (7) | 245 (7) | 175 (5) | 175 (5) | 1461 |
| 社会 | — | — | 70 (2) | 90 (2.6) | 100 (2.9) | 105 (3) | 365 | 社会 | — | — | 70 (2) | 90 (2.6) | 100 (2.9) | 105 (3) | 365 | 社会 | — | — | 70 (2) | 90 (2.6) | 100 (2.9) | 105 (3) | 365 |
| 算数 | 136 (4) | 175 (5) | 175 (5) | 175 (5) | 175 (5) | 175 (5) | 1011 | 算数 | 136 (4) | 175 (5) | 175 (5) | 175 (5) | 175 (5) | 175 (5) | 1011 | 算数 | 136 (4) | 175 (5) | 175 (5) | 175 (5) | 175 (5) | 175 (5) | 1011 |
| 理科 | — | — | 90 (2.6) | 105 (3) | 105 (3) | 105 (3) | 405 | 理科 | — | — | 90 (2.6) | 105 (3) | 105 (3) | 105 (3) | 405 | 理科 | — | — | 90 (2.6) | 105 (3) | 105 (3) | 105 (3) | 405 |
| 生活 | 102 (3) | 105 (3) | — | — | — | — | 207 | 生活 | 102 (3) | 105 (3) | — | — | — | — | 207 | 生活 | 102 (3) | 105 (3) | — | — | — | — | 207 |
| 音楽 | 68 (2) | 70 (2) | 60 (1.7) | 60 (1.7) | 50 (1.4) | 50 (1.4) | 358 | 音楽 | 68 (2) | 70 (2) | 60 (1.7) | 60 (1.7) | 50 (1.4) | 50 (1.4) | 358 | 音楽 | 68 (2) | 70 (2) | 60 (1.7) | 60 (1.7) | 50 (1.4) | 50 (1.4) | 358 |
| 図画 工作 | 68 (2) | 70 (2) | 60 (1.7) | 60 (1.7) | 50 (1.4) | 50 (1.4) | 358 | 図画 工作 | 68 (2) | 70 (2) | 60 (1.7) | 60 (1.7) | 50 (1.4) | 50 (1.4) | 358 | 図画 工作 | 68 (2) | 70 (2) | 60 (1.7) | 60 (1.7) | 50 (1.4) | 50 (1.4) | 358 |
| 家庭 | — | — | — | — | 60 (1.7) | 55 (1.6) | 115 | 家庭 | — | — | — | — | 60 (1.7) | 55 (1.6) | 115 | 家庭 | — | — | — | — | 60 (1.7) | 55 (1.6) | 115 |
| 体育 | 102 (3) | 105 (3) | 105 (3) | 105 (3) | 90 (2.6) | 90 (2.6) | 597 | 体育 | 102 (3) | 105 (3) | 105 (3) | 105 (3) | 90 (2.6) | 90 (2.6) | 597 | 体育 | 102 (3) | 105 (3) | 105 (3) | 105 (3) | 90 (2.6) | 90 (2.6) | 597 |
| 道徳 | 34 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 209 | 道徳 | 34 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 209 | 道徳 | 34 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 209 |
| 特別 活動 | 34 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 209 | 特別 活動 | 34 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 209 | 特別 活動 | 34 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 209 |
| 総合的な 学習の時間 | — | — | 70 (2) | 70 (2) | 70 (2) | 70 (2) | 280 | 総合的な 学習の時間 | — | — | 70 (2) | 70 (2) | 70 (2) | 70 (2) | 280 | 総合的な 学習の時間 | — | — | 70 (2) | 70 (2) | 70 (2) | 70 (2) | 280 |
| 外国語 活動 | — | — | — | — | 35 (1) | 35 (1) | 70 | 外国語 活動 | — | — | — | — | 50 (1.4) | 50 (1.4) | 130 | 外国語 | — | — | — | — | 70 (2) | 70 (2) | 140 |
| 合計 | 850 (25) | 910 (26) | 945 (27) | 960 (28) | 980 (28) | 980 (28) | 5645 | 合計 | 850 (25) | 910 (26) | 960 (27.4) | 995 (28.4) | 995 (28.4) | 995 (28.4) | 5705 | 合計 | 850 (25) | 910 (26) | 980 (28) | 1015 (29) | 1015 (29) | 1015 (29) | 5785 |

※網掛けは現行と異なる部分
※ただし、総合的な学習の時間の授業時数及び総授業時数から15を超えない範囲内の授業時数を減じることができる。

※網掛けは移行措置期間と異なる部分

注：()内は週当たりのコマ数。

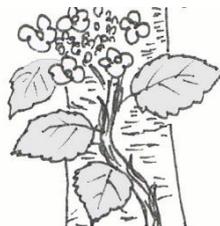
備考

- この表の授業時数の一単位時間は、45分とする。
(以下、略)

上図のとおり、令和2年（平成32年）4月以降の小学校の授業時数を平成29年までの授業時数と比較してみると、第5、6学年において、これまでの「外国語活動」の35時間に替わって教科としての「外国語」となり、時数も35時間が加わって70時間になります。また、第3、4学年についても、新たに「外国語活動」35時間が加わります。

さらに、時数の変更はありませんが、これまでの「道徳の時間」は、「特別な教科である道徳」となりました。

その他の教科については、授業時数は変わらないため、第4～6学年について、総授業時数は35時間ずつ増加し、子供たちも教員も、ますます多忙になっているといえます。



以上、新学習指導要領の教育課程に関する改訂のポイントをまとめると次のとおりとなります。

何ができるようになるか

- 新たな学習指導要領においては、目標とする「資質・能力の育成（コンピテンシー）」を全学年、全教科について単元ごとに明示した。

どのように学ぶか

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）に取り組む
- 教員による一方的な講義形式の教育ではなく、児童が主体となり、自発的に考え、意見を交換し、情報を共有しながら深められる学び、体験する、観察する、調べる、まとめる、考える、対話する、選択・判断する、表現するという学び方が重視される。

何を学ぶか

- 新たな教科「特別の教科 道徳」（1～6年）
これまでの道徳の時間が教科化・検定教科書の使用、評価（記述式）の導入
- 「外国語」（5、6年）が教科化「聞くこと、読むこと、話すこと」
目標：コミュニケーションを図る基礎
- 併せて、「外国語活動」（3、4年）が新たに導入
授業時間数の増加（学校教育法施行規則）
⇒ 「外国語活動」「外国語」により第3～6学年の授業時間が増加



1 新学習指導要領及び学校教育における森林等の取扱い

(4) 新学習指導要領における教育課程の編成についての 記述（森林等にかかわる事項）

「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニングの視点）に関する説明及び森林等に関係すると考えられる事項について、以下、新学習指導要領における記述をやや詳しく引用して確認すると次のとおりとなります。

授業時数の取扱いについては、効果的な学習活動のため、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に各教科等授業日を設定することができます。また、総合的な学習の時間における学習活動で同様な成果が期待できる場合、特別活動の学校行事の実施に替えることができることとしています。

指導計画の作成等に当たって配慮する事項として、各教科等及び各学年相互間の関連を図り、また、指導内容の関連性等を踏まえつつ、合科的・関連的な指導を進めるとしています。

その他、新たに教科として始まる道徳教育に関する配慮事項として、特に第5・6学年においては、集団生活の充実、伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛するとともに他国を尊重すること、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加など豊かな体験を充実することとしています。

また、道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得るなど、共通理解や相互の連携を図ることとしています。

どのような「資質・能力」（コンピテンシー）を育むかについては、「総則」の中で明らかにしています。

ここでの「資質・能力」とは、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3本の柱であり、すべての教科・学年の目標、内容等についてこの3本の柱で再整理されています。

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるように再整理したとしています。

そして、汎用的な能力を育てていくために、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を進めるとし、この「主体的・対話的で深い学び」とは、新学習指導要領の検討段階において、「アクティブ・ラーニングの視点」と呼ばれてきたものに対応しています。

「総則」第3の1「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の章で、「各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。」とし、「主体的・対話的で深い学び」へ向けた授業改善及びその具体的な内容について次のとおり説明されています。

- (1) 第1の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

- (2) 第2の2の(1)に示す言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、児童の言語活動を充実すること。あわせて、(7)に示すとおり読書活動を充実すること。

- (3) 第2の2の(1)に示す情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。あわせて、各教科等の特質に応じて、次の学習活動を計画的に実施すること。

ア 児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動

イ 児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動

- (4) 児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。
- (5) 児童が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。
- (6) 児童が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。
- (7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善については、改訂のポイントの中で強調されていますが、「小中学校において、これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならないと浮き足立つ必要はなく、これまでの教育実践の蓄積をしっかりと引き継ぎつつ、授業を改善・工夫していく」こととしています。

そのほかの改訂のポイントとして、各学校により工夫していくこととして、教科等横断的な学習を充実する必要があること。また、「主体的・対話的で深い学び」の充実には、単元ごとに、習得・活用・探究のバランスを工夫することが重要とされています。

そのため、学校全体として人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、カリキュラム・マネジメントを確立し、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育の質の向上を図っていくよう努めることを明記しています。

また、国語における言語能力の確実な育成、理数教育の充実、そして、伝統や文化に関する教育の充実、さらに、「道徳」を評価の対象とする特別の教科として道徳教育を強化、体験活動の充実、教科については、小学校において「外国語活動」及び教科として「外国語」を導入し外国語教育を充実したことなどが大きな改訂内容です。

さらに、その他の重要事項として、初等中等教育の一貫した学びの充実や情報活用能力（プログラミング能力を含む）、主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実が明記されています。



1 新学習指導要領及び学校教育における森林等の取扱い

(5) 森林環境教育のとらえ方と新学習指導要領

これまで見てきたとおり、教育基本法及び学校教育法において、自然の大切さや環境保全に対する態度を養うなどの規定がありますが、過去及び現在の学習指導要領において「環境教育」をどうとらえるかに関する記述はありません。総合的な学習において、例示として、「環境」をテーマとすることなどの記述があるのみです。

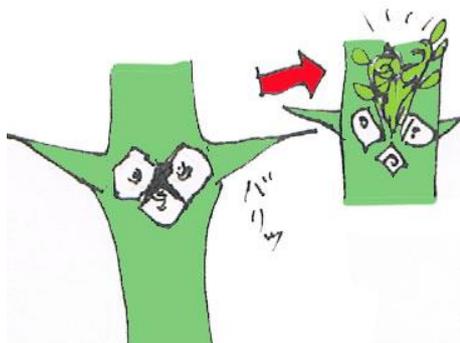
一方、次章以降で見るとおり、社会科5年における「林業」と「森林」、総合的な学習、特別活動、特別な教科道徳、その他の教科において、樹木や森林、自然を素材やテーマとして学び、学習の目的を達することとされており、実際の教科書においても、教科横断的に、樹木や木材、森林、林業、山村などを教材や項目・要素として活用されています。

従来から、「森林環境教育」については、in、about、for というとらえ方がされています。(京都教育大学教授 山下宏文氏発表資料より)

- ・体験主義 (in) : 森林での体験そのものが目的 → 感性を育てる
- ・知識主義 (about) : 森林について正しく知ることが目的 → 知識をもつ
- ・実践主義 (for) : 森林で奉仕活動することが目的 → 森林整備に参加する
- ・資質・能力主義 (in, about, for) : 森林について知識・能力・実践を統合することが目的

本来の「森林環境教育」のあり方は、資質・能力主義です。森林環境教育は、森林についての「体験 (in)」、「知識・思考 (about)」、「実践 (for)」を統合する学びでなければなりません。したがって、本来の森林環境教育のあり方は、新学習指導要領が求める「資質・能力主義」や「主体的・対話的で深い学び」という理念とも合致すると言えるのです。

さらに、このような「森林環境教育」のとらえ方は、ESD (Education for Sustainable Development 「持続可能な開発のための教育」) と合致することも明らかですので、「森林等」をテーマとする活動は、ESD の取組を進めていくことに他ならないのです。



2 新学習指導要領及び新たな教科書における森林等に関する記述

(1) 新たな教科書への移行

令和2年4月、新たな学習指導要領の全面実施に伴い、全国の小学校は、新しい授業時数と新しい教科書に移行しました。

実際には、新型コロナウイルスの感染拡大により、4月7日には7都府県、4月16日には全国に非常事態宣言が発出され、5月25日に解除され6月から順次学校が再開されましたが、この年度はまさに異常な状況が続きました。

そのことは別として、新たな教科書は、次のとおりとなっています。

| 小 学 校 教 科 書 (令和2年4月～) 他に「音楽」、「体育」 | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|---------------|-----|------------------|-------|--------|------|--------|------|------|--------|----|
| 教科 | 学年 | 教科書 | 教科書出版社 | | | | | | | 冊数 | |
| 国語(上下) | 1,2,3,4,5,6学年 | 4社 | 東京書籍 | 学校図書 | 教育出版 | 光村図書 | | | | 48 | |
| 生活(上下) | 1-2学年 | 8社 | 東京書籍 | 大日本図書 | 学校図書 | 教育出版 | 信州教育出版 | 光村図書 | 啓林館 | 日本文教出版 | 16 |
| 社会 | 3,4,5,6学年 | 3社 | 東京書籍 (5,6年上下) | 教育出版 | 日本文教出版 | | | | | 12 | |
| 算数 (一部上下) | 1,2,3,4,5,6学年 | 6社 | 東京書籍 | 大日本図書 | 学校図書 | 教育出版 | 日本文教出版 | 啓林館 | | 59 | |
| 理科 | 3,4,5,6学年 | 6社 | 東京書籍 | 大日本図書 | 学校図書 | 教育出版 | 信州教育出版 | 啓林館 | | 24 | |
| 図画工作 (上下) | 1-2,3-4,5-6学年 | 3社 | 東京書籍 | 開隆堂 | 日本文教出版 | | | | | 18 | |
| 家庭科(上下) | 5-6学年 | 2社 | 東京書籍 | 開隆堂 | | | | | | 4 | |
| 外国語 | 5-6学年 | 7社 | 東京書籍 | 三省堂 | 学校図書 | 教育出版 | 開隆堂 | 啓林館 | 光村図書 | 15 | |
| 道徳 | 1,2,3,4,5,6学年 | 8社 | 東京書籍 | 教育出版 | 光村図書 | 廣済堂 | 日本文教出版 | 学研 | 学校図書 | 光文書院 | 48 |
| | | | | | | | | | | 244 | |

教科によって、教科書出版会社の数がずいぶん異なることがわかります。

どの教科書を使用するかについては、市区町村立の公立の学校においては、市区町村の教育委員会が決定し、これに合わせて、教科書出版会社が教科書を印刷製本し発行します。

一般の人もすべての教科書を購入することは可能ですが、全国の子供たちに配布が終わってから注文して入手可能になります。

一刻も早く検定済みの教科書を閲覧確認したい場合は、検定結果発表の数か月後から全国都道府県の教育センターや公益財団法人教科書研究センター附属教科書図書館等で閲覧できます。

2 新学習指導要領及び新たな教科書における森林等に関する記述

(2) 新学習指導要領及び新たな教科書における

「森林等」の扱い

次項で、新学習指導要領及び新たな教科書における「森林等」の扱いについての整理表を掲載していますが、この整理表には、分類【1】から分類【4】までの区分があります。

この区分の内容は、次のとおりです。

分類【1】

学習指導要領で直接的に森林等について学ぶことが記載されているもの

義務教育である小中学校を通じて、学習指導要領で「森林」の表記があるのは、5年の社会のみです。これを分類【1】とします。

森林、林業そのものについて学ぶ単元は、社会5年のみですが、ここに至るまで、1・2年の生活、3、4年の社会や理科、総合的な学習や特別活動、その他の教科においても樹木や森林等に関する教材を活用する機会があります。

まず、分類【1】として社会5年の学習指導要領については、下記のとおりです。

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 |
|-----|----|------|---|
| 【1】 | 社会 | 第5学年 | 2内容：(5)我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について ア知識及び技能(イ)森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解する。イ思考力、判断力、表現力等(イ)森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現すること。 3内容の取扱い：(5)イの(イ) 国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。 |

参考までに、下に示した平成20年3月改訂の旧・学習指導要領の記述と比較してみると、内容の大きな変更はありませんが、「森林の育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力」、「森林資源の分布や働き」が理解すべきこととして明記され、「国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現すること」が育成すべき思考力・判断力・表現力として明記されていることがわかります。

(参考)旧学習指導要領(平成20年3月改訂)社会 5年

【内容】

(4) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図その他の資料を活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

【内容の取扱い】

エ エについては、我が国の国土保全等の観点から扱うようにし、森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力及び環境保全のための国民一人一人の協力の必要性に気付くよう配慮すること。

分類【2】

学習指導要領には森林等について学ぶことの記載はされていないが、すべての教科書で森林等が教材として扱われており、結果的にすべての子供たちが森林等について学ぶことになるもの

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 |
|-----|----|------|---|
| 【2】 | 社会 | 第4学年 | 4学年 (1) 都道府県の様子について イ(7) 地形や主な産業の分布 (2) 人々の健康や生活環境を支える事業 ア(7) 飲料水・・・を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康的な生活の維持と向上に役立っていること。 |
| 【2】 | 社会 | 第4学年 | 4学年 (5) 県内の特色ある地域の様子 ア(7) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。 イ(7) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。 (例えば、溪谷や森林・・・など・・・、祭りなどの伝統や文化を受け継ぎながら、それらを保護・活用している地域が考えられる。また、世界遺産に登録されている地域や・・・) |

上記は、学習指導要領の社会 4 年ですが、「(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」において、生活に必要な飲料水、電気、ガスを供給する事業について学ぶこととしています。「森林等」についての記載はありませんが、学習指導要領解説において「水源林の確保」について調べることなどの記載があります。社会科の教科書を発行している出版社は計 3 社であり、3 社ともすべてが「飲料水」を教材として扱っており、「水源林」についても教材としています。その結果、すべての子供たちが社会 4 年の教科書において、水源林や水源林を守る森林及び林業について学ぶことになります。

また、「(5) 県内の特色ある地域の様子」について学ぶこととしています。上記の枠内下欄の括弧でくくった部分は、学習指導要領とは別に、平成 29 年 7 月に全教科について発行されている『学習指導要領解説 社会編』に記載されているもので、例示として「森林」が記載されています。これに関しても、3 社の教科書出版社は、源流体験エコツアー、バイオマスツアー、森林セラピー、伝統文化の木工芸のいずれかを教材としており、ここでも、すべての子供たちが社会 4 年の教科書を通して、森林の保護、活用について学ぶことになります。

上記のとおり、社会 4、5 年において継続して「森林等」について学びますが、4 年の学習に至る過程での、社会 3 年及び生活 1・2 年における「森林等」からの一連のつながりのある学習という意味で重要であるといえます。

すなわち、次に示す学習指導要領のとおり、生活 1・2 年においては、身近な自然の観察、季節や地域の行事、身近な施設の利用などを体験し、それらが生命をもっていることや自然の不思議さに気付くという「体験」を重視した学習を経て、社会 3 年においては、身近な地域や市区町村の様子について、学習の問題を追究し、その問題を解決するという学習活動、社会 4 年においては、自分の都道府県の様子を学習し地形や主な産業の分布を学ぶこととしており、段階を追って、身近な地域や市町村、都道府県、そして、社会 5 年の国土についての学習へ展開しています。

1・2 年の生活での体験と社会 3 年の地域や市町村についての理解、社会 4 年での都道府県の地形や

産業についての理解があつてはじめて、社会 5 年での国土の様子や森林の分布を実感をもって理解し、問題を解決する学習につながると考えられます。

なお、社会 3 年では身近な地域や市町村の様子について学びますが、自分の市町村が森林地域または林業地域である場合には、副読本や特別活動などにより身近な「森林等」について学ぶことになるので、このような場合を後述の分類【3】に区分します。この場合は、社会 3 年、4 年、5 年の 3 年間にわたり、「森林等」について学ぶことになります。

学習指導要領において、「森林等」を単元、項目または要素として扱っている教科及び学年、すなわち分類【2】に区分できるものとしては、生活 1・2 年（一部）、社会 4 年、理科 6 年、道徳 1～6 年があります。詳細については、次項の「新学習指導要領及び新たな教科書における森林等に関する記述の整理表」を参照してください。

分類【2'】

学習指導要領に対応する教科書はないが、学習指導要領の記載から、森林等について学習する機会を設定できる領域等は、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」が該当し、これを分類【2'】として区分します。

「総合的な学習の時間」

1～6 年の総合的な学習の時間について、学習指導要領に記載されている目標としては、「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。」などがあり、目標を実現するにふさわしい探究課題については、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定することとされています。

例えば、環境に関するテーマにおいて、「森林」をめぐるテーマは、森林が地球環境と深く関わることなど、現代的な課題として横断的・総合的な課題として取り組みやすいと考えられます。そのためには、特別学習などの機会をとらえて、実際の森林体験を行うことと合せて、自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れるような指導計画が必要といえます。



特別活動の学習指導要領においては、次のとおり記載されています。

「特別活動」

2 内容

(4) 遠足・集団宿泊的行事

自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞きを広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。

(5) 勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。

遠足や集団宿泊などの学校行事において、実際の森林や林業について間近に見る機会が得られれば、社会4年での都道府県についての学習や社会5年での国土の保全に果たす森林の役割について学ぶ上で活用ができます。その場合、森林・林業等に携わる人や専門家、野外教育施設などとの連携協力を進める取組みも重要といえます。

分類【3】

学習指導要領に記載されている内容を学習するため、扱い方により森林等を教材として利用できるもの
の或いは一部の教科書で森林等が取り扱われているもの

生活1・2年（一部）、理科3～5年が該当します。（次項の整理表を参照）

分類【4】

学習指導要領に記載されている内容を学習するため、全てまたは一部の教科書において森林等が要素として扱われているもの

国語、社会3年・6年、算数、図工、家庭、外国語が該当します。これらの科目では、学習指導要領で、学習の目的として「森林等」につながる記載はありませんが、「森林」が題材となる教材も教科書において多く扱われています。また、特に国語は、基本となる言語活動である、話し合いの仕方や伝え方を学ぶ重要な教科です。（詳細については、次項の整理表を参照）

以上の分類【1】～【4】を表にすると以下のとおりとなります。

| 教科・学年の教科書における森林に関する内容の整理 | | | |
|--------------------------|--|-----|---|
| 分類 | 区 分 | 関連度 | 適 用 |
| 【1】 | 学習指導要領で直接的に森林等について学ぶことが記載されているもの | ◎ | 社会 5 年「私たちの生活と森林」：（日本の森林）（森林の手入れ）（林業）（森林を守る活動）（森林と林業の現実をとらえる）（森林のはたらき） |
| 【2】 | 学習指導要領では森林等について学ぶことは記載されていないが、すべての教科書で森林等が教材として扱われているもの | ◎ | 社会 4 年「飲用水・電気・ガスの供給の経路」（すべての教科書で、飲用水の供給経路のはじまりとして「水源林」を教材としている） 「土地の特色を生かした地域」（豊かな自然・森林を生かす）（※） 社会 6 年「地球環境とともに生きる」：（気象変動・森林減少） 理科 4 年「季節と生き物春夏秋冬」：（サクラの観察） 理科 6 年「生きもののくらしと環境」「地球に生きる」 生活 1、2 年「あきをたのしもう」 道徳 1～6 年全単元（生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること） |
| 【2'】 | 学習指導要領に対応する教科書はないが、学習指導要領の記載から、森林等について学習する機会を設定できるもの。 | ◎ | 総合的な学習「環境学習としての森林・林業体験など」 特別活動「集団宿泊学習における森林・林業体験など」 |
| 【3】 | 学習指導要領に記載されている内容を学習するため、扱い方により森林等を教材として利用できるもの或いは一部の教科書で森林等が取り扱われているもの | ○ | 理科 3 年「春の自然にとびだそう」「昆虫をしらべよう」「植物の形」 理科 4 年「雨水のゆくえ」 理科 5 年「植物の発芽と成長」 生活 1・2 年「ふゆをたのしもう」「きせつのおくりもの」「地域」「生きものをかう」 |
| 【4】 | 学習指導要領に記載されている内容を学習するため、全てまたは一部の教科書において森林等が要素として扱われているもの | △ | 国語 1～6 年全単元 3 年「登場人物について話し合おう」（モチモチの木）など 社会 3 年「変わる道具と暮らし」：（昔の道具と人々の暮らし）（※） 社会 6 年「天皇中心の国作り」：（木造建築） 算数 1 年「たしざんをみつけられるかな」など 算数 3 年「いろいろな長さをはかる」（幹のまわりをはかる） 算数 4 年「がい数」 算数 5 年「直径をもとめる」「面積を求める」 算数 6 年「縮図」（木の高さを求める）「表やグラフを用いて面積を求める」（日本と世界の森林面積の比較）：啓林館 理科 3 年「ものの体積と重さ」（キリ・ヒノキ・ケヤキ）啓林館 「ゴムの力のはたらき」啓林館 理科 6 年「ものの燃え方と空気」（二酸化炭素増加と地球の気温）：教育出版 「地層」（ブナの葉の化石）教育出版・啓林館 図工 1、2 年「自然物を基に思いについてつくる」 図工 3、4 年「材料や用具をえらびあわす」 図工 5、6 年「造形的な活動を思い付くことや、どのように活動するか考える」 家庭 5～6 年「上手にくらそう」「持続可能な社会を生きる」開隆堂 外国語 6 年「地球の生き物についてつたえよう」「環境について考えよう」「どんなことを言っているか聞こう」「クイズを作ろう」 |

* 森林等が扱われるその他の分類
地域学習（社会 3 年）において、市町村が森林地域である場合に、調べ学習等において森林等が扱われるもの
（※）小学校 3、4 年の社会においては、市町村または都道府県が作成した副読本で森林等について学ぶ機会がある場合もあることにも留意する。

2 新学習指導要領及び新たな教科書における森林等に関する記述

(3) 新学習指導要領及び教科書における森林等に関する 記述内容の整理表

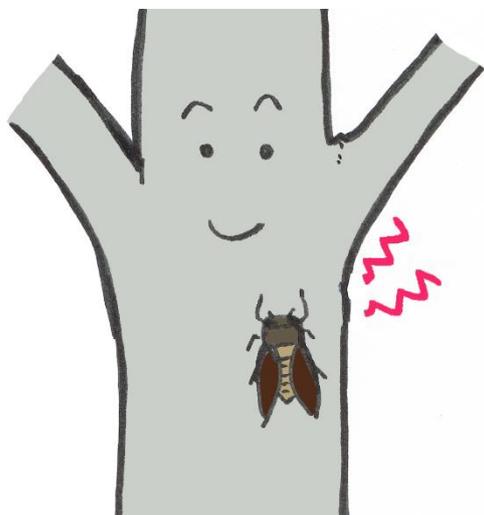
以下の整理表は、すべての教科書について、森林等に関して記載されている内容を、対応する学習指導要領の記述と教科書の単元、項目、要素、掲載している教科書出版社を一覧表にしたものです。

「要素」の具体的な内容は、「樹木」「森林」「林業」「山村」のいずれかに直接関わるもののほか、「食物連鎖」「地球環境」「地球温暖化」「砂漠化」「持続可能な社会」なども、広く森林等に関する要素に該当するものとしています。

学習指導要領で森林等について直接学ぶことを目標とはしていない、図工、国語、道徳、算数、外国語、家庭等の各教科においても「樹木」や「木材」、「森林」、「山村」を「要素」とした教材が教科書に掲載されています。

また、総合的な学習の時間、特別活動においても、これらに配慮し関係する教材を開発することにより、学習指導要領に沿った形で森林等に関わる学習とすることが可能です。

総合的な学習の時間及び特別活動については、各学校が工夫すべき重点項目として、教科等横断的な学習を充実するものとしており、また、そのテーマとしての「森林等」は、体験学習や地域学習、自然や暮らし・文化とのつながりが豊富で多様であり、その歴史をさかのぼることもでき、地球環境問題や持続可能な社会の構築などの現代的なテーマにもつながることから、新たな学習指導要領の趣旨に極めて適しているといえます。



「整理表」の活用方法について

「整理表」の活用方法は、次のとおりいろいろあると考えられます。

①自然体験プログラム策定に当たって参考とする

対象とする子供たちの学年により、その子供たちが学校でどのようなことを学習してきたか、或いは、これからどのようなことを学ぶか確認し、自然体験プログラムで学校での学習の前後に体験することができれば、より深い学びにつながります。

②学校での出前授業を依頼された場合

事前に学校で学ぶ教科書の出版会社を確認することにより、子供たちが使う教科書で取り上げている教材・項目・要素を確認し、出前授業での体験活動や話題として意識的に取り上げたり、教材を準備したりすることにより、より深い学びにつながります。

③特定のフィールドで子供たちが参加する自然体験活動を企画する場合

特定のフィールドで、子供たちが参加する自然体験活動の企画を実施する場合においても、そのフィールドの環境や素材について、学習指導要領や教科書で取り上げられているものに注目することにより、子供たちにとっても、ただ単に体験するだけでなく、学校での学習につながり、楽しくてためになる企画とするためのヒントになります。

④小学校等の先生が活用する場合

教科横断的な視点での学習計画作成資料、森林インストラクターなどに出前授業を依頼する場合の打合せ資料、総合的な学習の時間や特別活動における学習テーマの検討資料としても活用できる場合があるのではないかと考えられます。

⑤緑の少年団の指導者が活用する場合

緑の少年団の活動において、子供たちの興味や年齢に合わせた活動、活動フィールドの特徴を生かした活動、森林インストラクター等に活動の指導を依頼する場合などに、整理表やコラムに記載されている内容が参考にできると考えられます。

国語

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | | | | |
|-----|----|------|--|--------------------------|-------------|--|----|----|----|----|---|---|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 学図 | 教出 | 光村 | | |
| 【4】 | 国語 | 第1学年 | (1・2年目標) ・日常生活に必要な国語の知識、言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ・順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつ ・言葉がもつよさを感じ、楽しんで読書、国語の大切さを自覚し、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 | おはなしをたのしもう | やくそく | あおむし 木 | | | | ○ | ○ | |
| | | | | よむ | だれがたべたのでしょう | クルミ マツボックリ 木の葉 | | | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | はなす、きく | なににみえるかな | 木の葉 | ○ | | | | | |
| 【4】 | 国語 | 第2学年 | 同じ学習指導要領 | かく | はっけんしたよ | 花や木 生き物 | ○ | | | | | |
| | | | | きせつのことば | はるがいっぱい | サクラ | | | | | ○ | |
| | | | | じゅんじよに気をつけて読もう | たんぼぼのちえ | タンポポ種子散布 | ○ | | | | ○ | |
| | | | | きせつのことば | 夏がいっぱい | カブトムシ クワガタ | | | | | ○ | |
| | | | | きせつのことば | 秋がいっぱい | カキ イチヨウ モミジ | | | | | ○ | ○ |
| | | | | きせつのことば | 冬がいっぱい | ミノムシ サザンカ センリョウ ツバキ ヒイラギ ユズ ウメの花 | | | | | ○ | ○ |
| | | | | じゅんじよに気をつけて読み、つながりを見つけよう | すみれとあり | スマレ種子散布 アリ | | | | | ○ | |
| | | | | 気持ちをこめて声に出して読もう | 木(詩) | 木 | | | | | ○ | |
| | | | | きせつのとより | はる | サクラ | | | | ○ | | |
| | | | | きせつのとより | なつ | アジサイ ビワ | | | | ○ | | |
| | | | | 読書 | 読書のへや | 冬芽 | | | | ○ | | |
| | | | | むかしの物語をたのしもう | ヤマタノオロチ | ヒノキやスギ | | | | ○ | | |
| | | | | きせつのとより | あき | ブドウ カキ クリ ハギ クズ | | | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | きせつのとより | ふゆ | ミカン ヒイラギ サザンカ ウメの花 | | | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | かんけいをたしかめながら読もう | どんぐり | ミズナラ種子散布 | | | | ○ | | |
| | | | | ことばの力 せつめいのじゅんじよ | たんぼぼ | タンポポ種子散布 | ○ | | | | | |
| | | | | ことばの力 しりたいことを本で調べる | ビーバーの大工事 | ビーバー | ○ | | | | | |

コラム まとめ方伝え方

子どもたち自ら能動的な学習が重要となってきていますので、自分で考えたり、表現したりする技術や、意見交換の仕方や、整理法などのスキルを学ぶ項目が見られます。まとめ方、伝え方などは国語がとても重要となってくると思われます。国語3年「考えをまとめようひろげよう」では、思いついたことからつなげてひろげていく方法（ブレインストーミングとKJ法）、国語5年で本格的にインタビューの仕方、まとめ方、発言の仕方などが出てきます。

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | | |
|-----|----|------|--|--------------------------------|------------------------|--|----|----|----|----|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 学図 | 教出 | 光村 |
| 【4】 | 国語 | 第3学年 | (3・4年目標) ・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ・筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。 ・言葉がもつよさに気づき、幅広く読書し、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 | 登場人物について話し合おう | モチモチの木 | トチノキ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | | よんでそうぞうしたことをつたえあおう | きつつきの商売 | 森 ブナ | | | | ○ |
| | | | | きせつの言葉 | 春のくらし | 桜湯 タラの芽 | | | | ○ |
| | | | | 登場人物の変化に気をつけて読み、感想を書こう | まいごのカギ | どんぐり 葉桜 | | | | ○ |
| | | | | 対話の練習 | 山小屋で4日間すごすなら | 虫 | | | | ○ |
| | | | | 組み立てをとらえて、民話を紹介しよう | 三年とうげ | レンゲツツジ カエデ ガマズミ ヌルデ | | | | ○ |
| | | | | 声に出して読み、言葉のリズムを楽しむ | 俳句に親しむ | カキ | | | | ○ |
| | | | | 物語をよもう | 葉っぱ | 森 葉っぱ 木苺 キノコ | | | | ○ |
| | | | | 考えのまとめ方広げよう | 考えをひろげよう まとめよう | 生き物のひみつ | | ○ | | |
| | | | | 文章を読んで感想を伝え合おう | 自然のかくし絵 | 擬態する虫 | ○ | | | |
| 【4】 | 国語 | 第4学年 | つなぎの言葉の役割 中心となる語や文章を見つけて要約し、調べたことを書こう 調べたことをわかりやすく書こう 二つの文章を比べて読もう 筆者の視点をおって読もう 場面の移り変わり結びつけ、登場人物の変化を読もう | つなぎ言葉 | つなぎ言葉 | 森林の役割 | | | | ○ |
| | | | | 伝統工芸の良さを伝えよう | 伝統工芸の良さを伝えよう | 寄木細工 | | | | ○ |
| | | | | 「不思議ずかん」を作ろう | 「不思議ずかん」を作ろう | クスノキ | | | | ○ |
| | | | | 空飛ぶふろしきムササビ | 空飛ぶふろしきムササビ | スギ | | ○ | | |
| | | | | 「落ち葉」ではなく「落ち枝」 | 「落ち葉」ではなく「落ち枝」 | 枝 葉 | | ○ | | |
| | | | | ごんぎつね | ごんぎつね | ハギ・ハンノキ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | ハギ・ハンノキ | ハギ・ハンノキ | ハギ・ハンノキ | ○ | ○ | ○ | |
| 【4】 | 国語 | 第5学年 | (5・6年目標) ・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ・筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。 ・言葉がもつよさに気づき、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 | 情報を集めるとき | 目的に応じて引用するとき | 森林について調べメモし、文章をつくる | | | | ○ |
| | | | | 統計資料の読み方 | 固有種が教えてくれること | 保護とバランス | | | | ○ |
| | | | | 多様な情報を読み、根拠となる資料にもとづいて、考えを深めよう | 世界遺産 白神山地からの提言～意見文を書こう | 川の水量が変わらない たくさんの生き物が生きている ブナがスギに植えかえられる ブナの利用 シカの食害 ユネスコ世界遺産 ブナの森のめぐみ マタギ 自然体験 | | | | ○ |
| | | | | 表現のくふうを読む | 雪わたり | カンフ ホオノキ | | | | ○ |
| | | | | 本を読もう | 環境を考える | 森は海の恋人 | | | | ○ |
| | | | | 季節のたより | 春夏秋冬 | 山笑う 春吹雪 芽吹き 山したたる 若葉 夏立木 葉 山よそおう 山ねむる | | ○ | | |
| | | | | 意図を明確にして聞く | 知りたいことを聞き出そう | 総合的な学習の時間に地域の人にインタビューする | ○ | | | |
| | | | | 資料を活用する | 環境問題 | 温室効果ガス | ○ | | | |
| | | | | テーマを決めてブックトークしよう | 森へ(星野道夫) | 森全体が一つの生き物のよう 誰かが通ったようなあと クマの古いふんとキノコ サケが森をつくる 巨木が一列に並ぶ 根の間に穴 | | | | ○ |

社会

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | | |
|-----|----|------|---|--------------|--------------|-----------------------|----|----|----|---|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 教出 | 日文 | |
| 【4】 | 社会 | 第3学年 | (1)身近な地域や市町村の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けること。 ア(ア)身近な地域や市の様子を大まかに理解すること。 イ(ア)市・市の地形や土地利用・・・古くから残る建造物の分布などに着目して、市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。 | 市のように | 川にそったところ | 川の上流と中流 | | | ○ | |
| | | | | | 緑の多いところ | 市民の森 | | | ○ | |
| 【4】 | 社会 | 第3学年 | (4)市の様子の移り変わりについて、 ア(ア)人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。 イ(ア)・・・生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること | 変わる道具と暮らし | 昔の道具と人々の暮らし | たらい、せんたく板 | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | きねとうす | | | ○ | |
| 【2】 | 社会 | 第4学年 | (1)都道府県の様子について イ(ア)地形や主な産業の分布 (2)人々の健康や生活環境を支える事業 ア(ア)飲料水・・・を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康的な生活の維持と向上に役立っていること | 水の循環 | 水源林 | 森林と水の関係 | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 水源林の手入れが必要 | | | ○ | ○ |
| | | | | | | 緑のダムの働き | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 水源の大切さ(流域の視点) | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 市民参加の活動 | | | ○ | |
| 【2】 | 社会 | 第4学年 | (5)県内の特色ある地域の様子 ア(ア)県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。 イ(ア)特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。 (例えば、溪谷や森林・・・など・・・、祭りなどの伝統や文化を受け継ぎながら、それらを保護・活用している地域が考えられる。また、世界遺産に登録されている地域や・・・) | 土地の特色を生かした地域 | 豊かな自然・森林を生かす | ESD 源流体験エコツアー | | ○ | | |
| | | | | | | 森林セラピー | | ○ | | |
| | | | | | | 子ども樹木博士 バイオマスツアー | | | | ○ |
| | | | | | | バイオマス・ペレット・CLT | | | | ○ |
| | | | | | | 森林に関わる伝統や文化 箱根寄木細工 | | | ○ | |

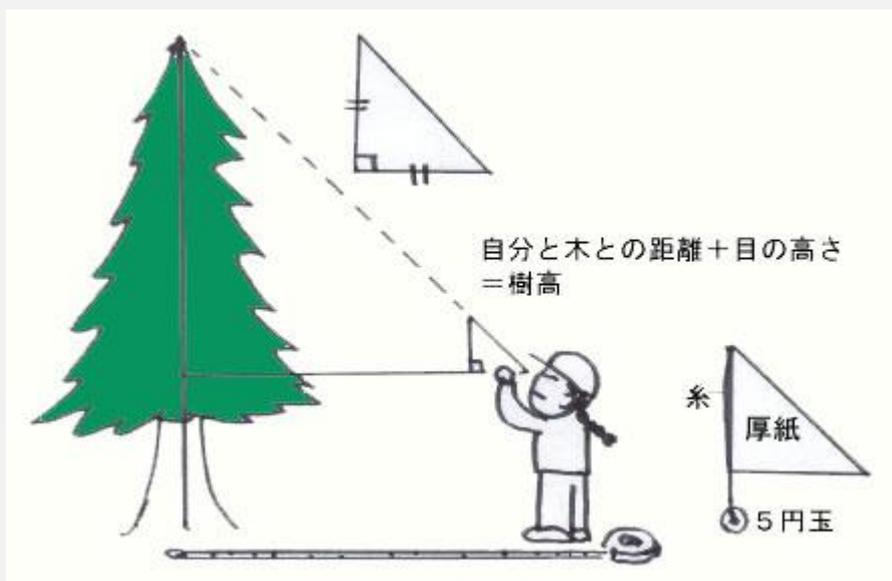


| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | |
|-----|----|------|--|-----------|---------------|-------------------|----|----|----|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 教出 | 日文 |
| 【1】 | 社会 | 第5学年 | <p>2内容</p> <p>(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア知識及び技能</p> <p>(イ)森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>イ思考力、判断力、表現力等</p> <p>(イ)森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現すること。</p> <p>3内容の取扱い</p> <p>(5)ウ国土の環境保全について、自分たちができることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること。</p> | 私たちの生活と森林 | 日本の森林 | 国土に占める森林面積 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 山崩れなど国土保全の働き | ○ | ○ | |
| | | | | | | 人工林と天然林 | ○ | | ○ |
| | | | | | | 登山 | | | ○ |
| | | | | | | 花粉症 | | | ○ |
| | | | | | | 木を使った製品 | | ○ | ○ |
| | | | | | | 紙の原料 | | | ○ |
| | | | | | 森林の手入れ | 苗木を育てる | | ○ | ○ |
| | | | | | | 植林 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 下草刈 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 枝打ち | | | ○ |
| | | | | | | 間伐 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 伐採 | | ○ | ○ |
| | | | | | | 運搬 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | 林業 | 製材所 | ○ | | |
| | | | | | | チェンソー | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 高性能林業機械(プロセッサ) | | ○ | |
| | | | | | | 国産材の利用 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 間伐材の利用 | ○ | | ○ |
| | | | | | | CLT | | ○ | |
| | | | | | | 木質バイオエネルギー | ○ | ○ | ○ |
| 【1】 | 社会 | 第5学年 | | 私たちの生活と森林 | 森林を守る活動 | 森林ボランティア活動 | | ○ | ○ |
| | | | | | | ナショナルトラスト運動 | | | ○ |
| | | | | | | 海岸林再生 | | ○ | ○ |
| | | | | | | 森林の育成と活用 | | ○ | ○ |
| | | | | | | 木づかい運動 | | ○ | |
| | | | | | | ウッドデザイン賞 | | ○ | |
| | | | | | | 間伐材マーク | | | ○ |
| | | | | | | 釧路湿原 琵琶湖 ラムサール | | | ○ |
| | | | | | | 世界自然遺産 白神山地 | ○ | ○ | |
| | | | | | | 世界自然遺産 知床 | | ○ | |
| | | | | | | 世界自然遺産 屋久島 | | ○ | |
| | | | | | | 世界自然遺産 小笠原諸島 | | | ○ |
| | | | | | | 小笠原カントリーコード | | | ○ |
| | | | | | | 森林に感心を持つ | | | ○ |
| | | | | | 森林・林業の現実をとらえる | 間伐してない人工林は森の働きが弱い | | ○ | ○ |
| | | | | | | 木材の価格 | | ○ | |
| | | | | | | 林業で働く人々の数・年齢 | | ○ | ○ |
| | | | | | | 林業で働く人の具体的な記述 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 外国の木材の輸入 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 花粉の少ない苗に植え変える | | | ○ |
| | | | | | 後継者対策 | 緑の雇用事業 | | ○ | |
| | | | | | | 林業インターンシップ | | ○ | |
| | | | | | | 林業大学校 | | ○ | |
| | | | | | | 効率化 アイディア商品 | | ○ | |
| | | | | | 森林のはたらき | さまざまな動植物のすみか | ○ | | ○ |
| | | | | | | 土に水をたくわえる 水源林 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 木材・木の実やキノコ | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 洪水・土砂災害防止 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | つなみ海岸防災林 | | ○ | ○ |
| | | | | | | 防風 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 防砂 | ○ | ○ | |
| | | | | | | 防雪 | ○ | | ○ |
| | | | | | | 騒音軽減 | ○ | | |
| | | | | | | 二酸化炭素を吸収し酸素をつくる | | | ○ |
| | | | | | | 空気をきれいにする | ○ | | |
| | | | | | | 水をきれいにする | ○ | | |
| | | | | | | やすらぎの場・森林と健康 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 魚つき林 | | ○ | ○ |
| | | | | | | 地球温暖化防止 | | ○ | |

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | |
|-----|----|------|--|-------------|-----------|--------------|----|----|----|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 教出 | 日文 |
| 【4】 | 社会 | 第6学年 | (2)ア我が国の歴史上の主な事象を手がかりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。 | 天皇中心の国作り | 歴史的建造物 | 法隆寺 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 東大寺正倉院 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 唐招提寺 | ○ | ○ | |
| 【2】 | | | (3)イ(イ)地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現する。 | 地球環境とともに生きる | 気候変動・森林減少 | SDGs 持続可能な社会 | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 温暖化ツバル | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | 砂漠化 | ○ | ○ | |
| | | | | | | 大気・水の汚染 | ○ | ○ | |
| | | | | | | 原発事故 | | ○ | |
| | | | | | | 酸性雨 | ○ | | ○ |
| | | | | | | 熱帯雨林森林伐採 | ○ | ○ | ○ |

コラム 算数で素材として使われる木

算数は学習指導要領において、特に学習の目的として「森林」につながる記載はありません。しかし、3年生では木の幹周を測ったり、4年生では概数で葉の数、5年生は幹の直径や面積、6年生では木の高さを求めます。素材として木が出てきます。他、算数は理科などの観察での測定の仕方、社会などのグラフの見方など基礎を学ぶ重要な教科です。



算数

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | | | | | |
|-----|----|------|---|---------------|----|------------|----|----|----|----|-----|----|---|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 大日 | 学図 | 教出 | 啓林館 | 日文 | |
| 【4】 | 算数 | 第1学年 | <p>・数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、…経験を重ね、…身の回りにある量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりする技能を身に付ける。</p> <p>・ものの数に着目し…身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の大きさの比べ方を考える力…などを養う。</p> | たしざんをみつけられるかな | | イチョウ | | | | | | ○ | |
| | | | | | | マツブックリ | | | | | | | ○ |
| | | | | もつとかずをみつけよう | | 木は一本二本三本 | | | | ○ | | | |
| 【4】 | 算数 | 第3学年 | <p>・数の表し方…小数及び分数の意味と表し方、…</p> <p>・数とその表現や数量の関係に着目し、…身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり適切に判断したりする力などを養う。</p> | いろいろな長さをはかる | | 木の幹の長さをはかる | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 【4】 | 算数 | 第4学年 | <p>(目的) 数とその表現や数量の関係に着目し、目的に合った表現方法を用いた計算の仕方などを考察する力…それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え、考察したりする力などを養う。</p> <p>(内容) 概数に関わる数学的活動を通して、…概数を用いられる場合について知ること。四捨五入について知ること。目的に応じて四則演算の見積りをする。</p> | がいの数 | | 一本の木の葉の数 | | | | | | | ○ |
| | | | | | | 環境 | | | | | ○ | | |
| 【4】 | 算数 | 第5学年 | <p>・数とその表現や計算の意味に着目し、目的に合った表現方法を用いて数の性質や計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを養う。</p> <p>・数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> | 直径をもとめる | | 木の直径 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | 面積をもとめる | | 葉の面積を求める | | | | | ○ | | |
| 【4】 | 算数 | 第6学年 | <p>・分数の計算の意味、文字を用いた式、図形の意味、図形の体積、比例、度数分布を表す表などについて理解するとともに、分数の計算をしたり、表やグラフに表したりするなどについての技能を身に付けるようにする。</p> <p>・数とその表現や計算の意味に着目し…身の回りの事象から設定した問題について、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行ない、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりする力などを養う。</p> | 面積をもとめる | | 葉の面積 | | ○ | ○ | | | | |
| | | | | | | 森林面積 | | | | | | ○ | |
| | | | | 縮図 | | 木の高さ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | 線対称 | | モミジの葉 | | | ○ | | | | |
| | | | | | | 木 | ○ | | | | | | |

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | | | | | | | |
|-----|----|------|--|-------------|---|--|----|----|----|----|----|-----|---|---|--|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 大日 | 学図 | 教出 | 信教 | 啓林館 | | | |
| 【3】 | 理科 | 第4学年 | <p>(2) 季節と生物 身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらと関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。(動物、植物それぞれ2種以上扱う) ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けることができるよう指導する。 (イ)植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。 イ 身近な動物や植物について追求する中で、既習の内容や生活経験を基に、季節ごとの動物の活動や植物の成長の変化について、根拠のある予想や仮説を着想し、表現すること。 イ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。</p> | (春)あたたかくなると | 木のようす | サクラ イチヨウ アジサイ リンゴ インターネット利用 3年時のQRコード 温度の測りかた動画 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | | (夏)暑くなると | 木のようす | サクラ イチヨウ カエデ アジサイ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | (秋) | 木のようす | サクラ イチヨウ いろいろなどんぐり カエデ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | (冬)寒さの中でも | 木のようす | サクラ イチヨウ 冬芽 アジサイ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | 生き物の一年 | まとめてみよう | サクラ トチノキ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | 資料理科のたまたまばこ | 季節の名前一英語 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【3】 | 理科 | 第4学年 | <p>(3) 雨水の行方と地面の様子 …流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (ア)水は高い場所から低い場所へと流れて集まること。 (イ)水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。 イ 雨水の行方と地面の様子について追求する中で、既習の内容や生活経験を基に、雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさとの関係について、根拠のある予想や仮説を着想し、表現すること。</p> | 雨水のゆくえ | 水のすがた | しみこみやすい土、しみこみにくい土 山と海、川の絵や写真 自然の中で水が溜まっているところはどこ？ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【3】 | 理科 | 第5学年 | <p>(1) 植物の発芽、成長、結実 植物の育ち方について、発芽、成長及び結実の様子に着目して、それらに関わる条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (ア)植物は、種子の中の養分を基にして発芽すること。 (イ)植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること。 (ウ)植物の成長には、日光や肥料などが関係していること。 (エ)花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができること。 イ 植物の育ち方について追求する中で、植物の発芽、成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を着想し、表現すること。</p> | 植物の発芽と成長 | 種子が発芽する ブナ 植物の成長 リンゴの人工授粉 虫が花粉がつきやすい花の形 虫が花粉をはこぶ 鳥が花粉をはこぶ 風が花粉をはこぶ 水が花粉をはこぶ | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | | | | | |
|-------------------|--------------------------|------|---|-------------|-------------|-------------------------|---------------------|----|----|----|----|-----|---|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 大日 | 学図 | 教出 | 信教 | 啓林館 | |
| 【3】 | 理科 | 第6学年 | (2)植物の養分と水の通り道 植物について、その体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (ア)植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。 (イ)根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。 イ 植物の体のつくりと働きについて追求する中で、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。 | 植物のからだのはたらき | 水を吸い葉から出す | 蒸散利用の緑のカーテン | | | | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | | 高さ100mをこえるセコイア | | | | | | ○ | |
| | | | | | 空気とのかかわり | 植物も呼吸をしている | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | | 日光が当たっているときの葉のはたらき | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 【3】 | 理科 | 第6学年 | (3) 生物と環境 生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境の関わりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けるように指導する。 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (ア)生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。 (イ)生物の間には、食う食われるという関係があること。 (ウ)人は、環境と関わり、工夫して生活していること。 イ 生物と環境について追求する中で、生物と環境との関わりについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。 | 生きもののくらしと環境 | 食べ物をとおしたかわり | 「食べる」「食べられる」の関係食物連鎖 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | | 外来種 | | | ○ | ○ | | | ○ |
| | | | | | | マイクロプラスチック | | | | | | | ○ |
| | | | | | | 地球上から植物が無くなるとどうなるか、説明せよ | | | | ○ | ○ | | |
| | | | | 地球に生きる | 水とのかかわり | 水は、地上と空との間をどのようにめぐっているか | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | | 水源林をまもる | | ○ | | | | | |
| | | | | | | 間伐材利用(教科書の紙も間伐材利用) | | ○ | | | | | |
| | | | | | | 人と環境とのかかわり | 地球温暖化 | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| | | | | | | | 砂漠化 | ○ | | | | | |
| | | | | | | | 森林の減少 | ○ | | | ○ | | ○ |
| | | | | | | | 汚れた川 | ○ | ○ | | | | |
| | | | | | | | 酸性雨 | ○ | | | ○ | | |
| | | | | | | 自然とともに生きるために | 身近な環境を守る取り組み | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| | | | | | | | 山にもとから生えている種類の木を植える | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | | | | | | 行動宣言を発表しよう | ○ | | | | | |
| | | | | | | | SDGs 持続可能な社会を作る | ○ | | ○ | | | ○ |
| | | | | | | | 環境学習・調査 | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| 6年社会 国連はどんな働きをする? | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 野生動物 | 野生動物シカなどによる被害 | | ○ | | | | | | | | | | |
| | 天敵のオオカミを導入(アメリカ) | | ○ | | | | | | | | | | |
| 外来種 | 飼っている生き物を逃がさない | | | | | | ○ | | | | | | |
| 自然エネルギー | 太陽の光がもととなったエネルギー | | ○ | | | | | | | | | | |
| エネルギー食糧問題 | 微生物(ミドリムシ) | | | | | | ○ | | | | | | |
| 生物の生息環境 | 開発規制、立ち入り規制 (学校)ピオトープ | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| 【4】 | 理科 | 第6学年 | (1)燃焼の仕組み ア(ア)植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。 (1)土地のつくりと変化 ア(イ)地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってできること。 イ土地のつくりと変化について追究する中で、土地のつくりやでき方について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。 | ものの燃え方と空気 | 炭を作ってみよう | マツボックリ、枝、葉 | | | ○ | ○ | | | |
| | | | | | 空気と環境 | 二酸化炭素の増加と地球の気温 | | | | | ○ | | |
| | | | | 地層 | 化石 | ブナの葉の化石 | | | | ○ | | ○ | |

生活

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | | | | | | | |
|--------------|----|------------|--|----------|---------|---------------------|---------------|----|----|----|----|----|-----|----|---|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 大日 | 学図 | 教出 | 信教 | 光村 | 啓林館 | 日文 | |
| 【2】 | 生活 | 第1学年及び第2学年 | (5)身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくようとする。 (6)身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、それらは生命をもっていることや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで遊びを創りだそうとする。 | あきをたのしもう | あきをさがそう | 秋に葉っぱの色が変わった | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | | 落ち葉 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | | 落ち葉の音 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | | どんぐり | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | | トチノミ | | | | | | ○ | | | |
| | | | | | | まつぼっくり | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | | あかいみ ほか | | | | ○ | | ○ | | | |
| | | | | | | ハチ ヘビ | | ○ | | ○ | | | | ○ | |
| | | | | | | ツタウルシ | ○ | | | | | | | ○ | |
| | | | | | | ギンナン | | | | ○ | | | | ○ | |
| | | | | | | キンモクセイ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | | あきとあそぼう あきをつたえよう | 葉のおめん | | ○ | ○ | | | ○ | | ○ |
| | | | | | | | とちのみ笛 | | | | | | ○ | | ○ |
| | | | | | | | どんぐりころがし(めいろ) | | | | ○ | ○ | | | |
| | | | | | | | 葉のこすりだし | ○ | | ○ | | | | ○ | |
| | | | | | | | 葉のはりえ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| | | | | | | | 落ち葉の首飾り | | | | ○ | | | ○ | |
| | | | | | | | ビニール袋と落ち葉の洋服 | | | | ○ | | | | ○ |
| | | | | | | | どんぐりのマラカス | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| | | | | | | | マツボックリのけん玉 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| | | | | | | | どんぐりコマ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | | やじろべえ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | | でんでんだいこ | | ○ | | | | | | ○ |
| | | | | | | | まといれ まとあて | ○ | | | | | | | ○ |
| | | | | | | | さかなつり | ○ | | | | | | | |
| | | | | | | | たたきぞめ | ○ | | | | | | | |
| | | | | | | | いろみず | ○ | | | | | | | |
| | | | | | | | 木の実おかし まつぼっくり | | | ○ | ○ | | | | |
| はっぱのかんむり | ○ | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | | | | |
| モビール | | | | | | | | | ○ | | | | | | |
| 落ち葉のトランプ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| まつぼっくりとんとん相撲 | | | | | | | | | ○ | | | | | | |
| 写真にとる | | | | | | | | | ○ | | | | | | |
| 道具の使い方QRコード | | | | | | | | | ○ | | | | | | |

コラム 教科等横断的な表記

学習指導要領において、教科等横断的な学習の充実を重点項目としていることに対応し、新たな教科書においては、森林等に関して、他教科と関連する項目・素材が意識的に記載されています。

「〇年生の理科の教科書をみよう」と直接記載されているものもありますが、「温暖化」「食物連鎖」など学習の素材として用いていることもあります。また、1、2年生の国語では、生活科に関連する内容が多くみられます。

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--------------------|------------|--|----------|-----------|--------|------------|----|----|----|----|----|-----|----|---|---|---|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 大日 | 学図 | 教出 | 信教 | 光村 | 啓林館 | 日文 | | | |
| 【3】 | 生活 | 第1学年及び第2学年 | <p>(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることや気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。</p> <p>(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどで遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、それらは生命をもっていることや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで遊びを創りだそうとする。</p> | ふゆをたのしもう | ふゆをさがそう | 冬芽 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| | | | | | 木のいちねん | ツバキの花 | | | | ○ | ○ | | | | | | |
| | | | | | きせつのおくりもの | はる | カシワの葉 | | | | | ○ | | | | | |
| | | | | | | サクラ | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | | | | イチヨウ | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | | | | タケノコ | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | | | | ユリノキ | | | | | | | | ○ | | | |
| | | | | | | ヤマボウシ | | | | | | | | ○ | | | |
| | | | | | | サルスベリ | | | | | | | | ○ | | | |
| | | | | | | なつ | サクラ | | ○ | | | | | | | | |
| | | | | | | ユリノキ | | | | | | | | ○ | | | |
| | | | | | | ヤマボウシ | | | | | | | | ○ | | | |
| | | | | | あき | サクラ | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | | | ユリノキ | | | | | | | | ○ | | | | |
| | | | | | ヤマボウシ | | | | | | | | ○ | | | | |
| | | | | | サルスベリ | | | | | | | | ○ | | | | |
| | | | | | カエデの種とばし | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | | | ふゆ | サクラ | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | | | ユリノキ | | | | | | | | ○ | | | | |
| | | | | | ヤマボウシ | | | | | | | | ○ | | | | |
| | | | | | サルスベリ | | | | | | | | ○ | | | | |
| | | | | | がくしゅうのしかた | 観察のしかた | 五感で感じる | | | | | ○ | | | | | ○ |
| | | | | | | 資料 | QRコードネット図鑑 | | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| がくしゅうのどうぐばこ | 洗濯板 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | |
| | ヒイラギかざぐるま | | | | | | | ○ | | | | | | | | | |
| | クズの葉 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | |
| かんがえるわざ | さくら | | | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| かんきょうのことをかんがえよう | リサイクルマーク | | | | | | | | | | | | ○ | | | | |
| | かんきょうについて学べる場所 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | 地球にやさしいとくみをかんがてみよう | | | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 地域 | 地図をつくろう | 落ち葉 | | | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | わたしのまちじまん | 白神山地 | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 【3】 | 生活 | 第1学年及び第2学年 | (7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。 | 生きものをかう | アゲハ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | サンショウ | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | | | | カラタチ | | | | | | ○ | | | | | | |
| | | | | | ミカン | | | | | ○ | | | | | | | |

図工

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | | | | | |
|---------------|---------------|----------|--|-----------------|----------------|--|----------|---|------------------------------|----------|-----------------|---|---|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 開隆堂 | 日文 | | | | | |
| 【4】 | 図工 | 第1及び第2学年 | (1)表現の活動を通して、発送や構想に関する次の事項を身に付けるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。 (6)材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、… ア …土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いること。 | 自然物を基に思いについてつくる | さわる | 葉 樹皮 | | ○ | | | | | |
| | | | | | お花見スケッチ | サクラ | | ○ | | | | | |
| | | | | | 友達みつけた | 冬芽 | | ○ | | | | | |
| | | | | | しぜんからのおくりもの | 紅葉落ち葉 | ○ | | | | | | |
| | | | | | ひかりの実 | 木 イルミネーション | ○ | | | | | | |
| | | | | | 見方をかえよう | 木を見上げたり、近くでみたり、葉をくらべる | ○ | | | | | | |
| 【4】 | 図工 | 第3及び第4学年 | (1)表現の活動を通じて、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えること。 (6)材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、… イ…木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いること。 | 材料や用具をえらび表す | わたしの6月の絵 | 葉っぱ におい すごい天気の中の植物たち | | ○ ○ ○ | | | | | |
| | | | | | 身近な自然の形 色 | お気に入りの葉 | | ○ | | | | | |
| | | | | | 小さな自分のお気に入り | 木のうろ | | ○ | | | | | |
| | | | | | 釘打ちトントン | 木材 | | ○ | | | | | |
| | | | | | つなげる | 年輪 葉 | | ○ | | | | | |
| | | | | | 土でかく | 土 | | ○ | | | | | |
| | | | | | 小刀をつかって木を削ろう | 小刀 | | ○ | | | | | |
| | | | | | 集めて並べてマイコレクション | マツボックリ、木のみ | ○ | | | | | | |
| | | | | | 盆栽にちようせん | 盆栽 | ○ | | | | | | |
| | | | | | ここにいたい | 枝など | | ○ | | | | | |
| | | | | | つなぐんぐん | 枝 | | ○ | | | | | |
| | | | | | 忘れられない気持ち | 桜の木 | | ○ | | | | | |
| | | | | | ひみつのすみか | 枝 木材 | | ○ | | | | | |
| | | | | | ざいりょうをみつけよう | 木材 つる タケ植物 | | ○ | | | | | |
| | | | | | 木から生まれる材料 | 流木 枝 葉・実・つる 丸太 板材・角材・丸材・竹材・木へん | | ○ ○ ○ ○ ○ | | | | | |
| | | | | | のこぎりで木を切ろう | たてびき刃、よこびき刃 | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | トントンつないで | カナヅチ 小刀 割りばしペン キリ | ○ | ○ ○ | | | | | |
| | | | | | 木々をみつめて | 樹形 あわせて学ぼう理科 | ○ | | | | | | |
| | | | | | わくわくネイチャーランド | 落ち葉 あわせて社会 | ○ | | | | | | |
| | | | | | 【4】 | 図工 | 第5及び第6学年 | (1)表現の活動を通じて、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかを考えること。 (6)材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、… ウ …針金、糸のこぎりなどを用いること。 | 造形的な活動を思い付くことや、どのように活動するか考える | 絵具スケッチ | やぶった紙に風景をかく 木など | | ○ |
| | | | | | | | | | | 形が動く絵が動く | サクラがさく | | ○ |
| | | | | | | | | | | 糸のこすすい | 糸のこ 板 | ○ | ○ |
| | | | | | | | | | | でこぼこの絵 | 葉 板 | | ○ |
| ミラーステージ | 桜の木 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 形や色に思いをこめて | SDGsのデザイン | | ○ | | | | | | | | | | |
| 同じものをたくさん | 木にぶらさげる 理科・道徳 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 地球は大きなキャンバスだ | 落ち葉・木 理科・道徳 | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 技術の発達と表現のひろがり | 呼吸する木 | ○ | | | | | | | | | | | |
| おもしろ筆 | 枝 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 作って楽しい | 切り株のバケツ | | ○ | | | | | | | | | | |
| 和紙の種類ととくちょう | コウゾ | | ○ | | | | | | | | | | |
| 木と金属でチャレンジ | 木で桜の枝 | ○ | | | | | | | | | | | |
| 入り口の向こうには | 落ち葉 木 道徳 | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 伝統の技を学ぶ | 曲げわっぱ 漆器 | ○ | ○ | | | | | | | | | | |

家庭

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | |
|-------------|---------|----------------|---|---------|-------------|------------|----|----|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 開隆 |
| 【4】 | 家庭 | 第5及び第6学年 | <p>(内容)C消費生活・環境持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>(2)環境に配慮した生活 ア自分の生活と環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解すること。 イ環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること。 (指導計画の作成と内容の取扱い) (2)指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、実習等における情報収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるように工夫する。</p> | 上手にくらそう | 表示の意味 | グリーンマーク | ○ | ○ |
| | | | | | | エコマーク | ○ | ○ |
| | | | | | ものを生かしてつかう | リデュース | ○ | ○ |
| | | | | | | リユース | ○ | ○ |
| | | | | | | リサイクル | ○ | ○ |
| | | | | | | リフューズ(断る) | ○ | ○ |
| | | | | | | リペアー(修理する) | ○ | ○ |
| | | | | | | ワンガリーマータイ | ○ | |
| | | | | | 植物を利用して熱を遮る | 緑のカーテン | | ○ |
| | | | | | | 理科 葉の蒸散作用 | | ○ |
| 持続可能な社会を生きる | 生活と環境関連 | 生活と環境のつながり | | ○ | | | | |
| | | ものやエネルギーをどう使うか | | ○ | | | | |
| | | 環境のことを考えた生活 | | ○ | | | | |

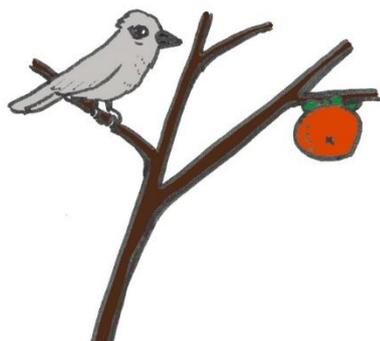
外国語

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | |
|-----|-----|------|--|-----------------|----|------------|----|----|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 三省 |
| 【4】 | 外国語 | 第6学年 | <p>(目標)(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>(内容)教材について イ世界の人々や日本の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げる。</p> | 地球の生き物についてつたえよう | | 食物連鎖 | ○ | |
| | | | | | | 理科の教科書で調べる | ○ | |
| | | | | 環境について考えよう | | 絶滅危惧種 | ○ | |
| | | | | | | ワンガリーマータイ | ○ | |
| | | | | どんなことを言うのか聞こう | | 屋久杉 | | ○ |
| | | | | | | アラル海砂漠化 | | ○ |
| | | | | クイズを作ろう | | 木が高い低い | | ○ |

道徳

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------------|------|--|------------|-------------|-------------------|--------------|----|----|-----|----|----|----|----|---|---|---|--|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 教出 | 光村 | 廣済堂 | 日文 | 学研 | 学園 | 光文 | | | | |
| 【2】 | 道徳 | 第1学年 | 第1学年及び第2学年以下に示す項目について扱う D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること。 | 生命を大切にす | 目じるしの木 | クスノキ | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | | | | あぶら山 | 資源を取り合うと困るのは | | | | ○ | | | | | | | |
| | | | | | | 二わのことり | ウメ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | | | | | | ウグイス | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | | | | | もみじがり | もみじ | | | | | | | | | ○ | | |
| 【2】 | 道徳 | 第2学年 | ・生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。 | 生命・自然を大切にす | ながいながいつうがくろ | ニセアカシアの花 | ○ | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | ビワの実 | ○ | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 落ち葉 | ○ | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 冬の木ははだか | ○ | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | みぢかなしぜん | こどもの森 | | ○ | | | | | | | | | |
| 【2】 | 道徳 | 第3学年 | 第3学年及び第4学年以下に示す項目について扱う C主として集団や社会との関わりに関すること 〔伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度〕 〔第3学年及び第4学年〕我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。 D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること ・生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。 | 生命・自然を大切にす | 花さき山 | 山菜 | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | |
| | | | | | | やまんば | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | |
| | | | | | | 一面の花 | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | |
| | | | | | | 薪は燃料 | | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | | | | 落ち葉はたい肥 | | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | | | | みんなで学ぶみんなで守る生物多様性 | 環境省 | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | | | | | 生物多様性 | | | | ○ | | | | | | | |
| | | | | | | 地球について考えよう | 地球 | | | | | | | | | ○ | | |
| | | | | | | | 伐採 | | | | | | | | | ○ | | |
| | | | | | | 自然を大切に | 元の森 | | | | | | | | | ○ | | |
| 森の水 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 人とシカ | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| いちょうの木をまもるために | 富士山 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | トキ | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 【2】 | 道徳 | 第4学年 | 生命・自然を大切にす | 生命・自然を大切にす | 木の中にバットが見える | メダカのふ化 | | | | | | | | | ○ | | | |
| | | | | | | イチョウ | | | | | | | | | | | ○ | |
| | | | | | | バットにあう木をみつめる | | | | | | | | ○ | | | | |
| | | | | | | 花さき山 | 山菜 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | | | | | | やまんば | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | | | | | バルバオの木 | 一面の花 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | | | | | | 砂漠化 | ○ | | | | | | | | | | |
| | | | | | | ふれあいの森で | バルバオの木 | ○ | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 水源の森ボランティア | ○ | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 受けつがれてきた命 | 外国から安い木材 | ○ | | | | | | | | | | |
| 植林されたスギヒノキの間伐 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| かことげんざいがともに生きる町 | 屋久島三代杉 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | 世界自然遺産 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 自然や動植物を大切に | 蔵造り | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | 伝統的な集落や街並み | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 美しいものに感動して | 合掌造り | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | ウミガメ | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 聞かせて君の声を！ | 真名井の滝 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | 野生動物の獣医師 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 森の水はうたうよ | オオワシ | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | 恵みの雨 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 荘川桜 | 森の水はみんなの命 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | サクラの移植 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 | 教科書 | | | | | | | | | | | | |
|----------------|-------------------|------|--|------------|-----------------|--------------------------|----------------------|------------|------------|---------|------|----|----|---|---|---|
| | | | | 単元 | 項目 | 要素 | 東書 | 教出 | 光村 | 廣済堂 | 日本文研 | 学文 | 光文 | | | |
| 【2】 | 道徳 | 第5学年 | 第5学年及び第6学年以下に示す項目について扱う C主として集団や社会との関わりに関すること ・我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること。 ・生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがいのないものであることを理解し、生命を尊重すること。 | 生命や自然を尊重する | 一ふみ十年 | チングルマの年輪 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | | | | トキのまう空 | 自然環境 農業を使わない田んぼ トキ | | ○ | | | | | | | | |
| | | | | | 知床の自然 | 生態系 知床の森・川・海 | | ○ | | | | | | | | |
| | | | | | 地球の温暖化を知ろう | 温暖化 | | | ○ | | | | | | | |
| | | | | | 自然の偉大さを知って | どうして自然を大切にする必要があるのでしょ？ | | | | | ○ | | | | | |
| | | | | | 母さんの歌 | クスノキ | | | | | | ○ | | | | |
| | | | | | 森の絵 | 森はいきている | | | | | | | ○ | | | |
| | | | | | 世界の自然遺産 白神山地 | 白神山地 | | | | | | | | | ○ | |
| | | | | | 自然を守るエピソード | エゾリスとクルミの関係 自然界の不思議 | | | | | | | | | ○ | |
| | | | | | 伝統文化の大切さを学ぶ | 法隆寺再建 | 法隆寺 千年生きた木は千年生かす | | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| | | | | | | 曲げわっぱから伝わるもの | スギ板からまほうのうつわ 伝統技術 | | | | ○ | | | | | |
| | | | | | | 白神山地 | ブナ伐採の弊害 世界自然遺産 | ○ | | | | | | | | |
| | | | | | | 桜守の話 佐野藤右衛門 | 見守るのが桜守 | ○ | | | | | | | | |
| | | | | | 【2】 | 道徳 | 第6学年 | 生命や自然を尊重する | より良い世界目指して | 持続可能な目的 | | | ○ | | | |
| 二つの「もったいない」 | 持続可能な社会 マータイさん | | | | | | | | | ○ | | | | | | |
| 地球の時間 人の時間 | 地球環境 | | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 緑の闘士-ワンガリーマータイ | 植林活動 もったいない活動 | | | | | | | | | | | ○ | | | | |
| 杉山の声を聞く画家-富田三郎 | スギ | | | | | | | | | | | ○ | | | | |
| 自然のゆりかご | エゾマツの倒木更新 | | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| いちばん近い自然「里山」 | 自然と調和した暮らし 生態系 | | | | | | | | | | | | | ○ | | |



総合的な学習の時間

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 |
|------|-----------|---------|---|
| 【2'】 | 総合的な学習の時間 | 第1～第6学年 | <p>(目標)(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p> <p>(内容の取扱い)(4) 自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。</p> <p>(7) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。</p> |



特別活動

| 分類 | 教科 | 学年 | 学習指導要領 |
|------|------|---------|--|
| 【2'】 | 特別活動 | 第1～第6学年 | <p>2内容</p> <p>(4) 遠足・集団宿泊的行事 自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。</p> <p>(5) 勤労生産・奉仕的行事 勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。</p> |

コラム 学校との打ち合わせ

学校は、教員自身も「これほど忙しいとは！」と驚くほど忙しくなっています。いままでとは位置づけが異なる道徳、外国語、プログラミングなども加わりますし、教育委員会への報告・保護者対応・地域との協働など、授業以外にも仕事が増え山積みです。授業時数も増えた上に、イベントも増えるばかりです。その状況を理解して協力していく姿勢がなければ、学校との信頼関係築くことはできません。

遠足や宿泊学習のあり方を変えていきたいと考えている学校もあるので、林業の見学やその作業体験など、受け入れやすい状況であればニーズがあります。また、教員は植物に詳しいとは限らないので、校内の植物を調べる活動など喜ばれます。

学校との協働を図るには、学校の求めるものをよく理解した上で自分を知ってもらえるようにアピールできる材料を簡潔に見せましょう。ただ、遠慮しすぎては中途半端な授業になるので、言うべきことは言って、協働体制を丁寧に作り、信頼関係を築かねばなりません。最近はビデオ通話を使った打合せにより、場所の確保も不要になるので、慣れている教員であれば可能です、打合せはできるだけ効率化しましょう。

教員は忙しすぎる



コラム ICTの活用

ICTは主に授業場面での活用が思い浮かびますが、外部との交流などにも利用できます。ビデオ通話など利用できれば、遠距離の出前授業や交流も可能となります。外部の指導者が学校に来ることなく、子どもたちの質問に答えることもできるでしょう。林業の仕事現場をリアルタイムに見せることもできるかもしれません。違う学校との交流も可能です。北海道や沖縄、海外の小学校・緑の少年団同士でお互いの身近な自然を紹介しあうことも可能になります。

そして、ビデオ通話では質問がたくさん出るのも特徴です。キャリア教育などで職業を紹介するときなどは、質問時間を長めにとると充実したものになるでしょう。

3 新教科書の特徴と森林等に関連するプログラムのヒント

(1) 生活1・2年 「あきをたのしもう」

分類【2】

<教科書の特徴>

1・2年の生活で樹木が出てくるのは、1年の秋からです。「あきをたのしもう」、「季節と仲良し あき」、「あきとあそぼう」などの表題で、どんぐりやマツボックリ、落ち葉などを拾い、遊ぶ方法を紹介しています。どんぐりゴマ、やしろべえなど、新しい教科書では、これまでの教科書より多くのいろいろな遊びが紹介されています。野外で秋を探しどう感じたか表現し、様々な遊びを体験して、それを伝え合っ

て楽しむことが掲載されています。

アクティブ・ラーニングに対応した出前授業の展開例

ふしぎをさがそう 枝の蛍光ペン

<はじめに>

ふしぎな樹液が出る枝を見ると、驚きと感動で「木って面白い!」と興味を持ちます。身近な木でも不思議はたくさんあることに、目を向けさせましょう。

<教科>

生活1・2年、理科3、4年、総合的な学習の時間

<事前準備>

○森林インストラクターなど樹木に詳しい指導者の協力を得て、アオダモやトチノキの枝をもらいます。アオダモは最近、庭木として植えられています。枝は新鮮であるほど樹液の出がよいので、実施する前にもらい、湿らせて密封し冷蔵庫で保管します（一か月ぐらいは大丈夫）。もし乾いてしまったら、前日から水で湿らせておきます。枝のコンディション管理は重要です。

○紙は蛍光剤が入っていないか確認します。再生紙など蛍光剤が入っているものは、紙自体が光るため、蛍光ペンがよく見えなくなってしまいます。安いコピー用紙がおすすめ。

○教室が薄暗くなるか、確認します。明るいと樹液は見えません。また、真っ暗になりすぎるのも道具など扱いにくく、絵も描きにくくなります。

<当日準備>

枝の切り口が乾くと樹液の出が悪いので、始まる直前に枝を15cmぐらいの長さに切る。シャーレ（または透明なコップ）に水を入れておく。追加の水、使い終わった水をすてるバケツを配置紙、シークレットペン、枝は直前に配布する。

<実施>

① あいさつ アオダモで自己紹介（5分）

アオダモペンで絵をかいてみよう（15分）

各自、枝のペンをシャーレの水に入れて樹液が出るのを確認します。樹液が出たら水をつけて紙に書いてみます。UVライトは目など人に当てないように注意します。樹液が出なくなった枝は、剪定ばさみで枝先を切るとまた出ます。剪定ばさみは講師と教員が持ち、切るようにします。

② 外にふしぎを探しに行こう（20分）移動含め

樹木、草花、虫、なんでも質問を受け付けます。他の木も蛍光色の樹液が出るか、日陰でやってみてもよいと思います（1つだけ透明コップと水入りペットボトル、UVライト持ち出す）。

③ みんながみつけたふしぎを紹介（5分）

何人か見つけたものと感想を言ってもらい、まとめをします。



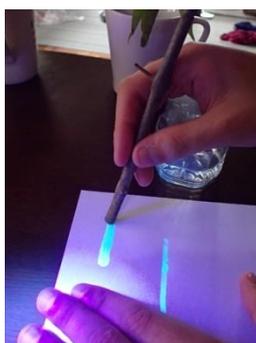
アオダモの花



樹液が何かは不明



蛍光剤が入っている再生紙（左）は×



枝を濡らして書く



出なくなったら切る



UVライトの注意事項は絵で



<メモ>

○アオダモの他にも、トチノキなども蛍光色の樹液が出ます。

○シマトネリコ、オリーブ、ニセアカシア、アジサイ、アカメガシワ、サネカズラなども蛍光物質が出るが、量が少ないためペンには向かない。

○アオダモは庭木で人気。木材は野球のバットに使われています。青い樹液が何かははっきりとはわかっていません。蛍光物質自体はいろいろな植物に含まれています。

○宿泊学習などでは、この樹液で怖い絵などを書いてもらい、UVライトで照らして歩く肝試しコースを作ってもよいと思います。

3 新教科書の特徴と森林等に関連するプログラムのヒント

(2) 社会4年「水の循環」

分類【2】

<教科書の特徴>

飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや地域の人々の暮らしにとって大切であることを理解するする単元です。いろいろな情報を集め、話し合い、考える事に重点が置かれています。

アクティブ・ラーニングに対応した出前授業の展開例

森の保水力

<はじめに>

森の土と学校の土の違いを五感で感じ、その上で保水力を比べ、森の役割を学びます。

<教科>

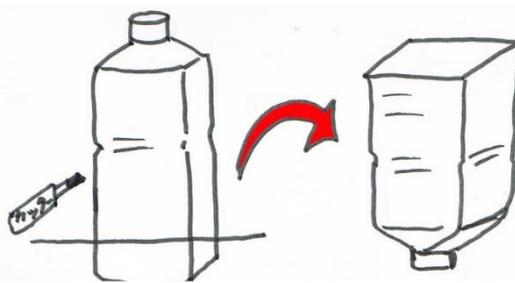
社会4年、理科4年、総合的な学習の時間

<準備>

森林インストラクターなど森林や森林土壌について知識のある専門家の協力を得て準備します。

材料

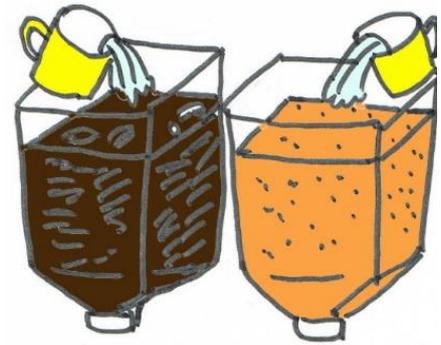
- ペットボトル2ℓサイズの底をカッターでカットしたもの 2本
- 計量カップ
- 山の土
- 校庭の土
- 水
- 新聞紙



<実施>

- ① 森の土と校庭の土を触って感想を言う。(5分)
 - この2種類の土を触ってみてください。違いがわかるかな。
 - 黒い方の土は森の土です。この土は葉っぱや枝が菌類や小さな生き物たちに細かくされてできました。土が1cmできるのに100年から400年かかります。
- ② 吸水力を比べる(20分)
 - ペットボトルを逆さにし、キャップをしめ、山の土、校庭の土をそれぞれ入れます。
 - 計量カップで、それぞれの土に同時に水を入れていきます。
 - この底を切り取ったペットボトルに下から8割ぐらいのところまで土を入れます。
 - 比べるので混ぜちゃだめですよ。それぞれ同じ量を入れますよ。
 - 森の土も校庭の土もある程度乾いたものをつかいます。

- 水がたくさん入るのはどっちの土だと思う？
- 計量カップで水が何杯入るか、調べてみましょう。
- 森の土は○杯、校庭の土は○杯水が入ったね。
- 森がないと、こういう土はできないんだよ。落ち葉を分解する菌類やミミズなどの土壌の生物が土を作っているだよ。



③ 説明を聞く（5分）

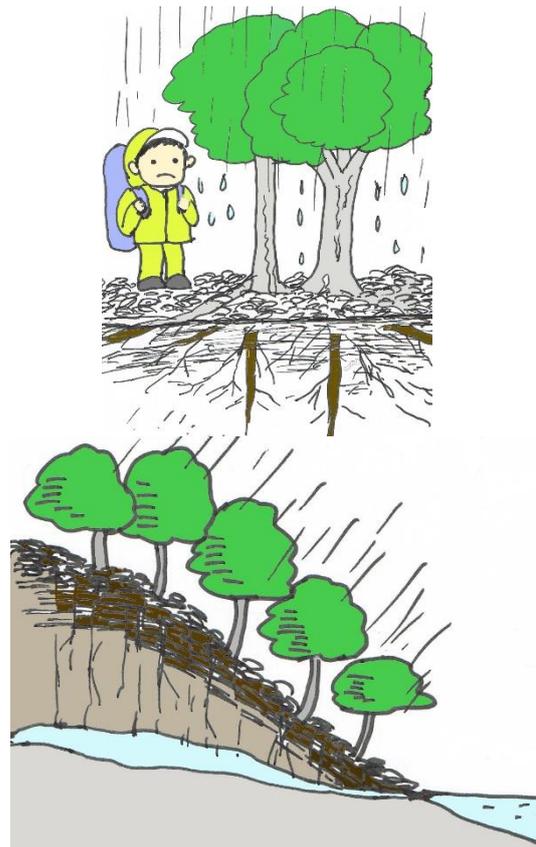
絵や写真を利用して、森と街の違いを確かめます。木の中に水が入っていて「緑のダム」と思っている人が多いが、森の土が緑のダムの役割をしており、木が無くなると土がなくなること説明する。

- どっちの土が水をたくさん吸えると思う？
- 土の断面はこうなっています。・学校の土は落ち葉が積もった部分がないので、スポンジみたいに吸い込まない。
- 木が全部なくなったらどうなるか。

④ 質問（5分）感想記入（10分）

<メモ>

- 実験をはじめる前に、次のことについて話し合ってみよう。
- （質問1）水道の蛇口をひねるといつでもきれいな水がでてくるのはなぜ？
- （質問2）水道の水はどこからきますか？
- （質問3）日照りが続いて上流のダムの水が減ってくるとどうなるでしょう？
- （質問4）ダムの水が減らないようにするにはどうしたらよいでしょう？



3 新教科書の特徴と森林等に関連するプログラムのヒント

(3) 理科4年「季節と生物」

分類【2】

<教科書の特徴>

理科4年では生き物を1年を通して観察する単元があります。「春あたたかくなると」、「夏暑くなると」、「秋すずしくなると」、「冬の寒さの中でも」、「生き物の一年」と、1年を通して身近な生き物の変化を観察します。

動植物の季節の変化を学ぶ教材として、サクラの木が全ての教科書で採用されています。

アクティブ・ラーニングの視点に立った出前授業の展開例

子ども樹木博士のクイズ

<はじめに>

学校では児童に学校にある木を学ばせたいが、教員に植物に詳しい人がいるとは限りません。樹木の名前だけでなく、どんな生活をしていて、どんな利用をされるか、子供たちが面白がりそうなネタを選び、クイズのようにして興味を持ってもらいましょう。子ども樹木博士の認定証(※)が手に入れば、モチベーションも上がると思います。

年間を通して観察するこの単元では、子供たちが興味を持った生き物についての疑問などにも対応できることが望ましいです。学校にインターネット環境などがあるのなら、子供たちが分からない虫や植物、冬芽など、森林インストラクターなど専門知識のある指導者がインターネットで答えるという方法も考えられます。

(※) 子ども樹木博士認定活動推進協議会事務局：(一社) 全国森林レクリエーション協会

<教科>

理科3、4年、生活1・2年、総合的な学習の時間

<事前準備>

子ども樹木博士認定事業に対応できる、森林インストラクターなどに協力してもらいます。

○校庭等の樹種からワークシート作り

子供たちが作業しやすい校庭や庭などで樹種を選定します。子供たちがよく知っている樹種と、知らないけど面白い樹種を選びます。ワークシートは当日までに先生に印刷を頼みます。

○パワポ作り

事前に学校の木を写真に撮り、パワーポイントを作ります。身近な木が意外とすごい木だと知ると興味をそそります。注意してみないと見過ごしそうなミクロな部分(毛や蜜腺)や利用の仕方など紹介します。

○子ども樹木博士の認定証を注文し、子供の名前を書いてもらい後日渡してもらいます。

○紙にナンバーを書いておきます。遠くからも見やすいように大き目の字が良いです。

<授業当日準備>

○木に作っておいたナンバーをつけ、葉が高い場所しかない場合は、高枝切りバサミで枝を切って根本などに置いておきます。

○プリントをはさむクリップボード 筆記用具を各自準備してもらいます。

<実施>

○教室にて挨拶 パワポでこれから見る樹木の説明（15分） 移動（5分）

○樹木さがし 各自がワークシートに記入（20分） やり方がわからない子には声掛けします。

○答え合わせ（5分） 1問でもできていれば、めちゃくちゃ褒めます。

○まとめの話、問いかけ（まとめは簡潔に、問いかけはちょっと難しい課題）

<メモ>

- 樹木は動いてないようで、見続けると変化があっておもしろいので、今後も見てほしい
- 樹木だけで生きているわけではなく、虫や鳥など協力者がいる(虫観察からつなげる)。蜜腺に来るアリを探したり、花の色や形、実の形など虫や鳥目線で観察してみよう。
- 冬芽は夏にはできている。夏と冬に観察してみよう。冬芽のかわいい顔など探してみよう。



遠くからも見やすいように大きな字で



校庭でワークシートを持って木を探す子供たち

○○小子ども樹木博士ワークシート

年 氏名 _____

とくちょうを見つけよう！

| 木の名前 | とくちょう1 | とくちょう2 | この木は何番？ |
|-------------|---------------------------------------|--|---------|
| プラタナス | 葉の柄の先はキャップみたいになっている 見つけたらチェック！ | 白っぽくなっている葉っぱに、小さな虫（プラタナスグンバイ）がいる 剪定 | |
| ソメイヨシノ（サクラ） | 葉のうらや柄に毛が少しある 毛 | 葉っぱに、みつが出るイボがある 蜜腺 | |
| フジ（ノダフジ） | 奇数1セットの葉 1枚 | つるは左手まき（S字まき） こっち | |
| マツ | 針のような葉は2本セット 針 | 幹は灰色でウロコみたい 樹皮 | |
| モッコク | 葉っぱがつつやつやして、柄が赤いものもある 赤 | 新しい枝の切り口が赤い。枝に白ゴマのような点々がある 切り口 | |

岩谷作成

3 新教科書の特徴と森林等に関連するプログラムのヒント

(4) 特別活動・総合的な学習の時間

分類【2'】

1～6年「体験活動など」

<教科書の特徴>

特別活動の宿泊学習で、効果的に行えると思われるのは、社会5年の「私たちの生活と森林」で林業見学を行うことです。現場に行くことは深い学びにつながると考えられます。

その他、体験活動を以下に紹介します。

アクティブ・ラーニングに対応した出前授業の展開例

木の実で洗濯～昔の洗濯体験

<はじめに>

材料の入手や準備、実施など、森林インストラクターなどに協力してもらいます。

石けんとして使われていた実は、サイカチのさや、エゴノキの実の皮、ムクロジの実の皮、トチノキの実などがある。サイカチやムクロジは昔の人が洗い物をしていた場所に植えられていることが多いです。昔の人の暮らしを想像しながら体験し、昔の洗濯と今の洗濯を比べてみましょう。

<教科>

社会3年、生活1・2年、家庭5・6年、総合的な学習の時間

<事前準備>

○材料集め ムクロジなどの実を集めておきます。(冬など)

学校側が準備できるものできないものなど確認し、分担して準備します。

<当日準備>

ペットボトルに水を入れておきます(100ml ぐらい。多いと泡立ちがわるい)。

すすぎ用のトレイまたはタライに水を入れておきます。

<実施>

①挨拶説明(5分)

②木の実(ムクロジ)を使って泡立て実験。(15分)

炭やクレープで布を汚す→実を足で割る→ペットボトルに実を小さくちぎって入れる→シェイクして泡立てる→汚した布を入れてさらにシェイクして洗濯する→菜箸で布を出してタライまたはトレイの水ですすぐ。落ちてなかったらもう一度。入れる実を増やしてもよい。

③たらいや洗濯板で雑巾をあらってみます（15分）

④洗濯に使った木の実の写真を見ながらお話を聞きます（10分）（プロジェクター使用）



炭やクーピーで布を汚す



広めな場所で伸び伸びシェイク



泡立つほどよく落ちる



きれいに落ちた！



泡を集めるとおもしろい



ほいっぷるんで泡立てる

<メモ>

○洗剤として使われていた実は、ムクロジの実の皮、サイカチのさや、エゴノキの実の皮、トチノミなどがあります。泡立つのはサポニンという物質で、多くの植物に含まれます。大豆やセイタカアワダチソウの花も泡立ちます。サボンソウは汚れがよく落ちます。

○実は現在の洗剤の半分ぐらいの洗浄力があると言われています。口紅とかクレヨンとかペンの汚れはなかなか落ちないので、「落ちない」と怒らないで、温かい目で見てください。

○100均のほいっぷるんで泡立てても面白いですが、匂いがよくないので、ローズマリーなど一緒に入れます。「くさい」以外の表現をしてみるように言いましょう。

ちなみに実を臭いという子も多いので「都昆布」「よっちゃんいか」の匂いだと言い聞かせます。

○台湾やインドではムクロジの石けんを売っています。日本にもシャンプーや布袋に入れて洗濯機で使う人もいます。ムクロジは環境にやさしい洗剤として扱われているようです。

○サイカチで服を洗うと茶色く染まります。江戸時代に外国人のペリー提督が白いシャツを日本人に洗わせて、茶色くなって戻ってきたので激怒したという文章が残っているようです（花王博物館）。昔の人は白さにこだわりはなかったようです。

○一方、古代ローマ人は、おしっこで洗濯していたようです。おしっこのビタミンB₂は紫外線に蛍光するので、白く見えます。現在、洗剤に蛍光剤が入っているものがありますが、おしっこはそれと同じ役割だったのかもしれない。

○汚し方もいろいろ試すとおもしろいです。昔の汚れ、今の汚れと違いを考えましょう。

子供たちに対する指導のポイント（筆者の体験から）

●せめて嫌いにならないことが大事

想像してみてください。全く興味のないアイドルの話を長々されている状況を。ファンでもない人はうんざりするだけでしょう。興味を全く持っていない話を延々と聞かされ、その上「深い学び」のためにグループディスカッションをやらされ、発表させられ、行動しろと言われてたらどうでしょう？きっと嫌いになるでしょう。一方的に話すだけでは、拒否反応が起こってしまうのです。こちらが思っている以上に、子供たちは森林に関心がない場合もあります。ウケなくても、子供が夢中にならなくても良いのです。せめて嫌いにならないことが重要です。そのためのポイントは以下のとおりです。

- ① 言葉で伝えるときは、必ずエピソードを入れる。クイズなどを交えるととてもよい。
- ② 映像や動画などたくさん使う。絵の説明などもよい。
- ③ 匂いや感触など、五感を使う内容はこどもたちの興味を引く。
- ④ 得する知識など織り交ぜる。

一方的に話を聞かせるだけ、資料を読むだけの授業は耐え難いものがあります。子供たちに質問を投げかけたりして、キャッチボールのように進めたいものです。また、最近はボードゲームがいろいろあり、考えるきっかけやいろいろな人の立場になって考えることに適したものもあります。

すでに拒否反応がある場合。例えば「虫が大嫌い」という子供がいますが、そういう子供は虫にはとても関心があります。「虫の才能がある！そういう人が将来虫の本を書いたりする。」と褒めます。現に虫が嫌いな子はたくさん虫を見つけ、細かいところまで観察しています。虫が嫌いな子は才能があるので褒めて育てましょう。

●つかみよければ、可能性が広がる

導入はワクワクさせないと、あとの時間、子供は我慢して過ごすこととなります。同じお話でも、最初のつかみが良ければ集中力がまったく違います。ワクワクさせるような導入を考えましょう。導入が楽しければ、多少難しい話でもついて来ようとしてくれるのが



わかります。究極の授業は、ほとんど教員がしゃべらないで、子供が夢中になる授業のようです。

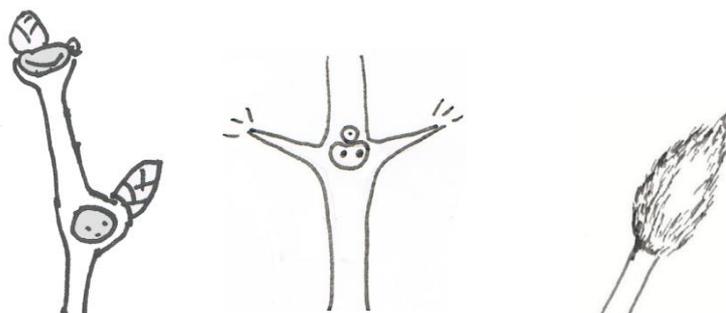


●効率を求めてはいけないもの

時間の制約があり、どうしても1からすべてを体験させることは困難です。大人側の準備しやすさを優先して、子供に大事なことが伝わらないことが多々あります。与えられた作業をこなすだけだと、体験の効果がありません。例えば、木の実を使って洗濯するときに、あらかじめ実を細かくしておいたら、子供たちにはそれが木の実だとは伝わっていませんでした。自分で実をつぶす体験は絶対に省略してはいけなかったのです。また、枝などで工作や実験などする場合、葉つきの枝を見せてからはじめると「本物の木だ!」と感じてもらえると思います。

●自分で考える 行動する

同じ授業でも、自分で考えて試してみることで、やれと言われたことをやるのでは、学習効果が大きく違ってきます。やれと言われたことをやるのは単なる作業です。子供自らが能動的に考えることが一番大切なことです。すぐに教えてあげるのではなくて、子供たちが疑問に思った機会をチャンスにして、「自分で考えてみて」「自分で考えてやってみるのが大事!」と投げかけましょう。そして、自分で考えて、行動した子供をたくさん褒めてあげてください。たとえ的外れな行動であっても、自分で考えてやったことは勇気があることです。それにはこちらも余裕がないと難しいのですが、子供たちをよく観察していると、こちらも楽しくなってくるので、子供たちと一緒に楽しめると思います。



新学習指導要領のもとでの森林体験活動の展開

～緑の少年団等の森林体験活動指導者に向けて～

発行日：2021年3月

編集・発行：公益社団法人 国土緑化推進機構

編集・制作：（一社）日本森林インストラクター協会

執筆：寺嶋嘉春（一社）日本森林インストラクター協会会長、森林文化教育研究会

岩谷美苗（一社）日本森林インストラクター協会理事、樹木医

イラスト：岩谷美苗

監修：山下宏文 京都教育大学 教授

